

# 学内広報

for communication across the UT



特集：東京大学の教育

～「大学教育の達成度調査」からみえてくるもの

2010.2.19

No. 1396

## 東京大学の教育

～「大学教育の達成度調査」からみえてくるもの

大学総合教育研究センター

## はじめに

大学総合教育研究センターでは、教育企画室／評価支援室の委託を受け、昨年度の卒業生に対する大学教育の達成度に関する調査を実施した。このような東京大学の卒業生に対する悉皆（全数）調査が行われるのは、初めてのことである。この調査は、平成21年3月に平成20年度の卒業生3,097名を対象として実施され、回収率は約40%であった。調査にご協力をいただいた各学部と学生のみなさんに御礼を申し上げる。また、調査の実施にあたっては調査委員会を組織した。関係者の皆様にも御礼を申し上げたい。

この調査は、東京大学の教育・研究環境の向上を目的として、学生に、東京大学の学習環境、学習経験や大学生活についてたずねるものである。調査結果は、大学総合教育研究センターで分析し、その結果を東京大学の自己評価さらに教育研究の改善に活用することとなっている。本報告書は、このうち、全体の速報を示すものであり、今後よりいっそうの分析を続け報告していく予定である。

今回は初めての試みであり、学部によって回収率にかなりのばらつきがあり、全体の傾向として見るためには留意が必要である。こうした点も含め、調査を改善し、本年度以降も実施していくことになっている。本報告書に関しても、忌憚のないご意見をいただければ幸いである。また、引き続き各学部と新卒業生諸氏の調査へのご協力をお願いしたい。

2010年2月

大学総合教育研究センター長

岡本和夫

## 調査実施組織

大瀧友里奈 大学総合教育研究センター・特任助教 ○大多和直樹 大学総合教育研究センター・助教  
岡本 和夫 大学総合教育研究センター長 ○小林 雅之 大学総合教育研究センター・教授  
藤原 毅夫 大学総合教育研究センター・特任教授 山本 泰 大学院総合文化研究科・教授  
○劉 文君 大学総合教育研究センター・特任研究員 (五十音順 ○は、本報告書執筆者)

## 実施方法

- アンケート送付日 : 平成21年3月24日
- 送付数 : 3,097票（卒業生数）
- 回答数 : 1,227票（平成21年4月20日現在）
- 回収率 : 39.7%（回収率は、回収数 / 卒業生数 で計算した）

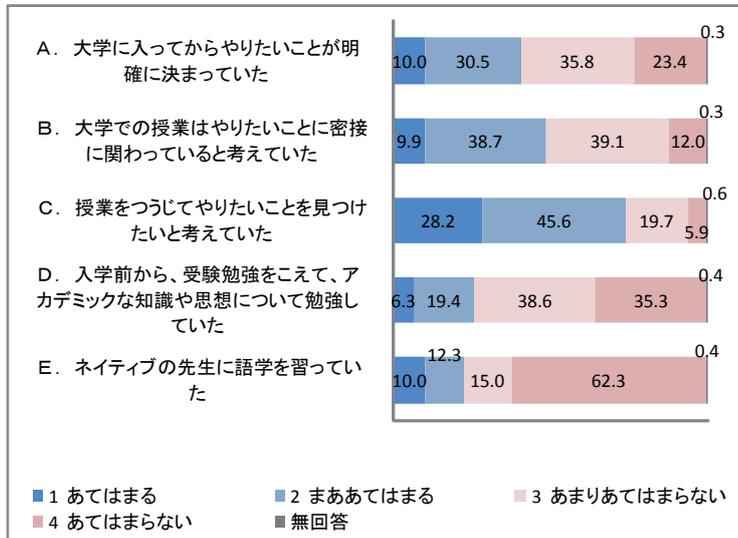
※学部（各学科）が、卒業式後の書類配布時に調査票を配布し、以下のAおよびBの方法で回答・回収した。

- A. 自記による回答後、各学部が回収（法、理、農、経済、薬）
- B. 自記による回答後、大学総合教育研究センターに郵送（医、工、教養）
- A.B. 併用 自記による回答後、各学部が回収および大学総合教育研究センターに郵送（文、教育）

## 入学時にやりたいことが明確：約4割

### 「入学前からアカデミックな知識・思想」は4分の1にとどまる

Q. 入学時の様子についてお聞きします。  
つぎのことは、どの程度あてはまりますか。

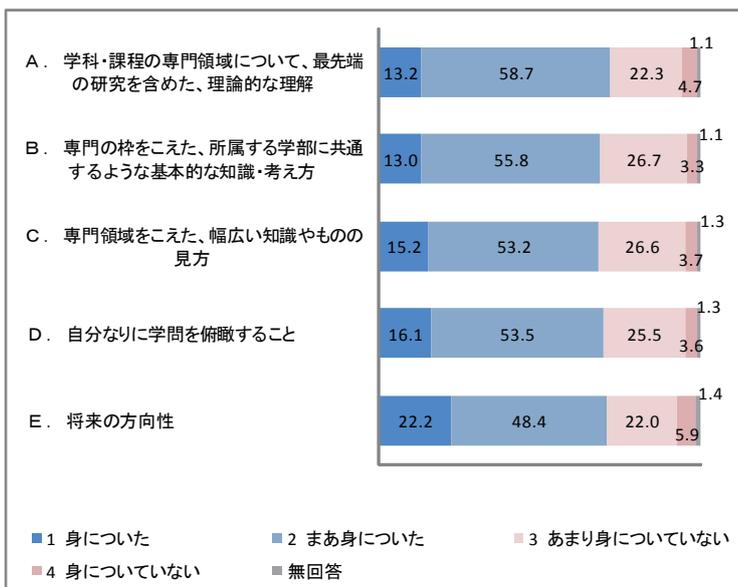


「A. 大学に入ってからやりたいことが明確に決まっていた」とする学生は、「あてはまる」と「まああてはまる」をあわせて40.5%となる。半数近くは明確でないことになるが、それゆえに、授業への関心は高く「C. 授業をつうじてやりたいことを見つけたいと考えていた」という学生は「あてはまる」と「まああてはまる」をあわせると73.8%にのぼる。

入学前の準備(レディネス)を見てみると「D. 入学前から…アカデミックな知識や思想について勉強していた」割合は、25.7%でそれほど高くはない。

## 7割の学生が「まあ身についた」

Q. あなたは、東京大学の教育をつうじて、以下のような点を身につけたと思いますか。



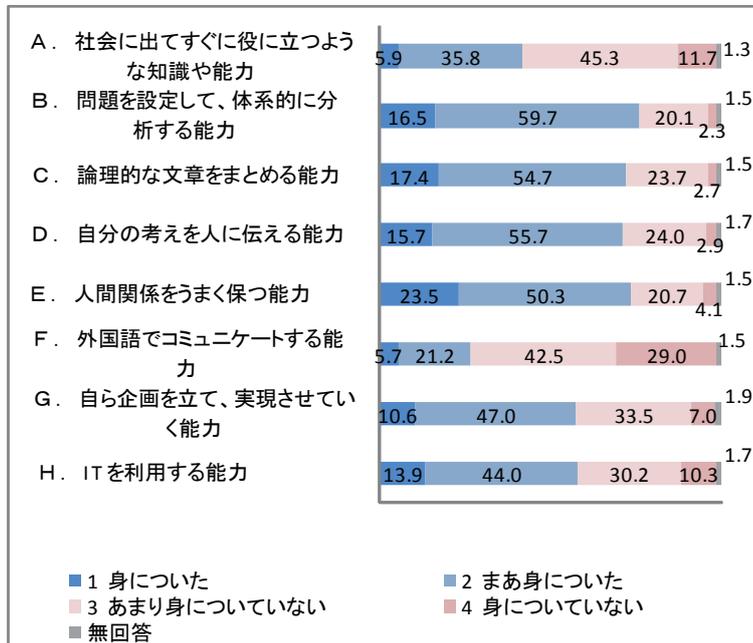
この質問では、まず、専門領域の理解、学部共通の基本的知識・考え方、幅広い知識や見方、学問の俯瞰の各項目において、習得のあり方に大きな違いは見られなかった。どの項目においても「身についた」が1割5分前後の値となり、「身についた+まあ身についた」で7割前後の値となっている。逆に「身につけていない」とする学生は1割に満たない。

「E. 将来の方向性」についてもほぼ同じ傾向にあるが、以上の4項目よりも「身についた」が22.2%と若干高くなっている。

## 汎用性の高い能力は4分の3の学生が身につけたとしている

## 実用性の高い能力はあまり身につけていない

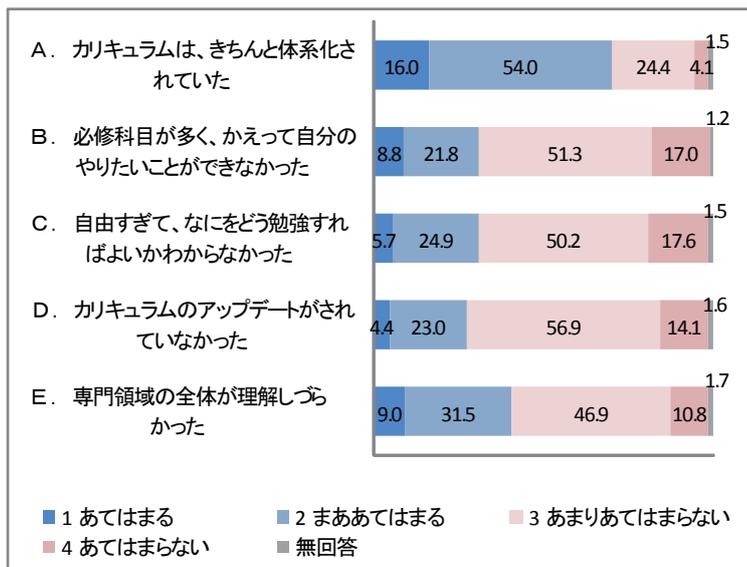
Q. あなたは、大学時代をつうじて、以下のような点を身につけたと思いますか。



大学時代をつうじて、身につけた能力としてあげられているのは、「B. 問題を設定して体系的に分析する能力」「C. 論理的な文章をまとめる能力」「D. 自分の考えを人に伝える能力」「E. 人間関係をうまく保つ能力」で、いずれも「身についた」と「まあ身についた」をあわせて7割以上の学生が身につけたとしている。これに対して、あまり身につけたと評価していないのは、「F. 外国語でコミュニケーションする能力」で、身につけたとする学生は3割に満たない。また、「A. 社会に出てすぐに役に立つような知識や能力」も約4割の学生が身につけたとしているに過ぎない。さらに、「G. 自ら企画を立て、実現させていく能力」「H. ITを利用する能力」についても、身につけたとしている学生は、6割以下となっている。

## カリキュラムについては、肯定的な回答が多いが、約3分の1の学生は評価していない。特に「専門領域の全体が理解しづらかった」という学生は約4割

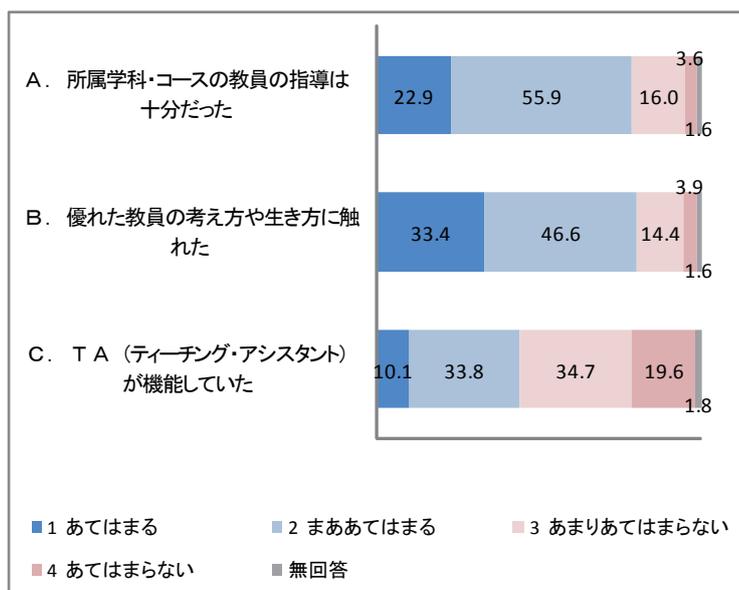
Q. 専門学部・学科等のカリキュラムについてお聞きます。



専門学部・学科のカリキュラムについて、「A. きちんと体系化されていた」と評価する学生は、「あてはまる」と「まああてはまる」をあわせて約7割で、「B. 必修科目が多く、かえって自分のやりたいことができなかった」「C. 自由すぎて、なにをどう勉強すればよいかわからなかった」「D. カリキュラムがアップデートされていなかった」という否定的な項目について、「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」という回答はいずれも7割前後にのぼっている。しかし、「E. 専門領域の全体が理解しづらかった」という学生は約4割となる。

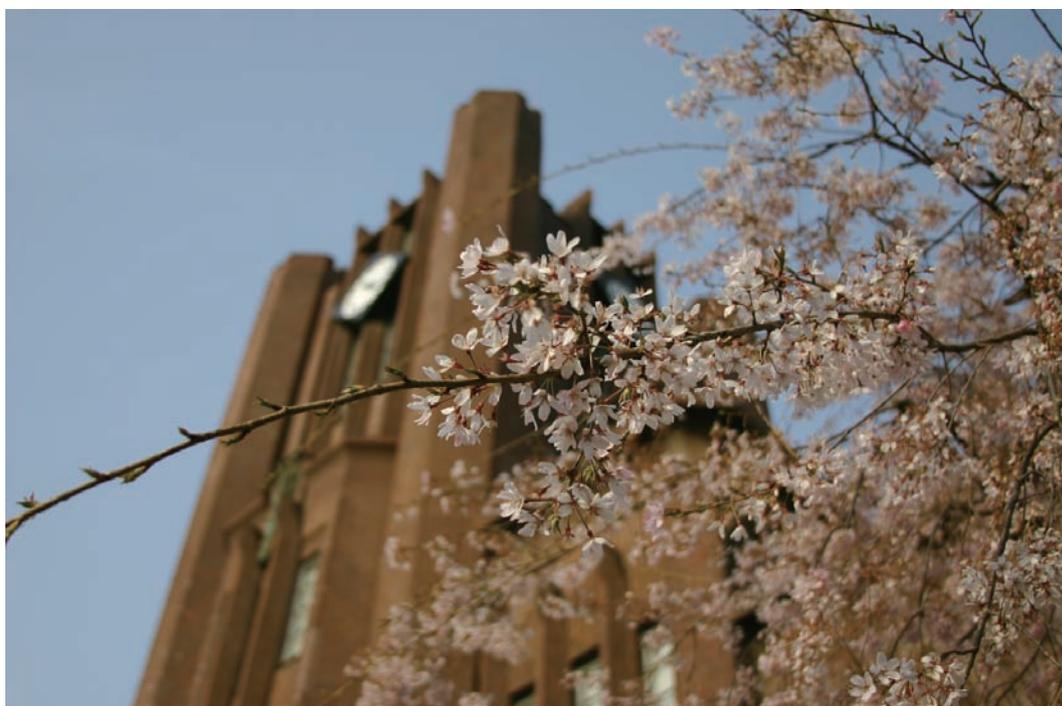
## 8割の学生が「指導は十分」、「優れた教員の考え方・生き方に触れた」

Q. 教員や教育制度との関係についてお聞きします。



「A. 所属学科・コースの教員の指導は十分だった」は、「あてはまる」と「まああてはまる」をあわせると約8割にのぼる。また、「B. 優れた教員の考え方や生き方に触れた」についても同様の数値がみられた。比較的高い割合となっていることが窺える。この二つの質問項目について「あてはまる」をみると「B. 優れた教員の考え方や生き方に触れた」で、33.4%となり、「A. 所属学科・コースの教員の指導は十分だった」の22.9%を約10ポイント上回る結果となった。

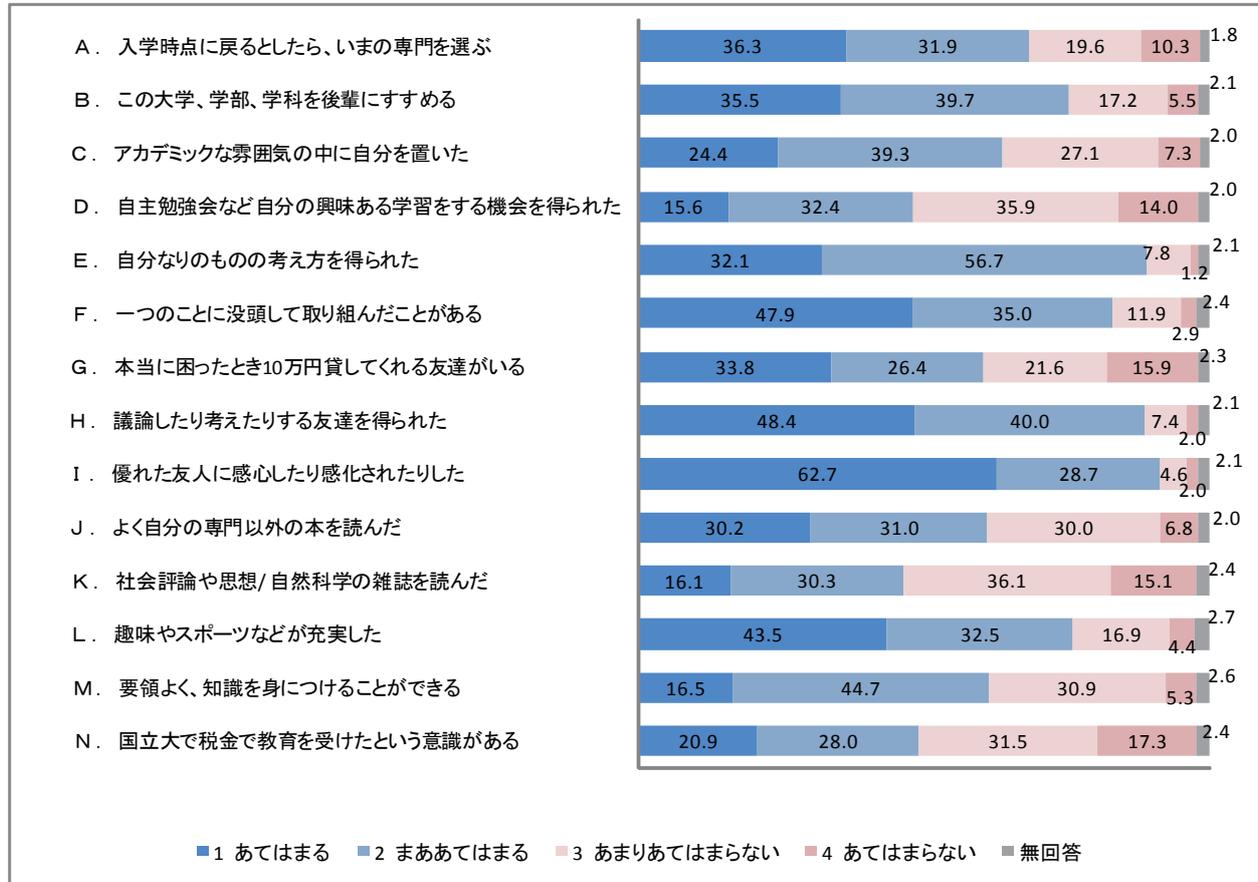
「C. TAが機能していた」については、TAを実施している部局とそうでないところもあるが、機能していると答えた学生は、4割強であった。



## 友人から感化、友人と議論：9割

### 「自分なりのものの考え方の習得」：9割

Q. 大学時代をつうじての経験を総合して、つぎのようなことはどの程度あてはまりますか。



学生が優れた友人と出会う経験が多いということが東京大学の学習環境の一つの特徴といえるだろう。「I.優れた友人に感心したり感化されたり」といった経験をするものが「あてはまる」で6割となり、「あてはまる+まああてはまる」では、9割にのぼる。また、「H.議論したり考えたりする友達」もまた、「あてはまる+まああてはまる」で9割に迫る数値となった。「G.10万円貸してくれる友達」という項目は、困ったときに助けてもらえるという感覚をたずねたものであるが、これも5割にのぼる。

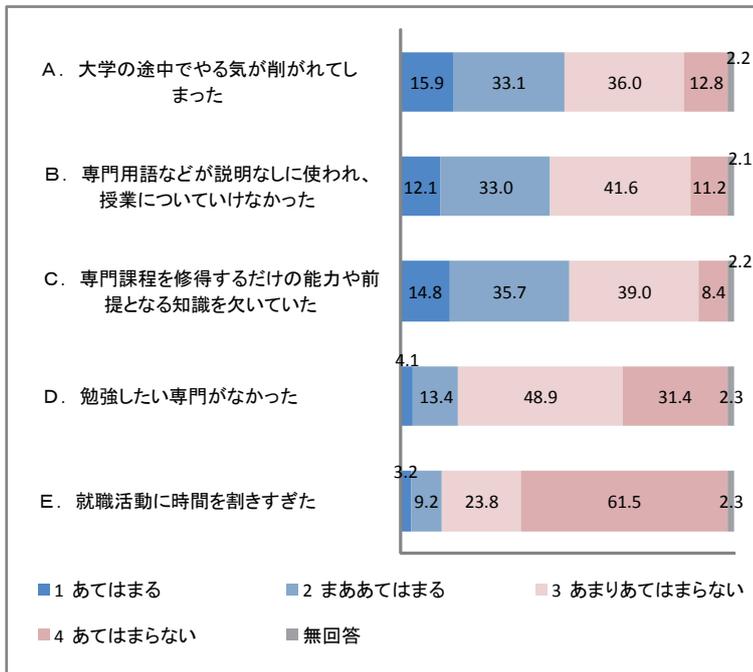
このような環境のなかで、9割弱が、「E.自分なりのものの考え方」を習得したと答え、また、「F.一つのことについて没頭した」経験も8割にのぼるなど、個人の豊かな学習経験でも高い割合の回答が得られた。

「N.国立大で税金で教育を受けたという意識がある」については、「あてはまる+まああてはまる」で約半数に達している。「あてはまらない」と答えた者は17.3%となっている。

## 大学時代の経験：5 割弱の学生が「大学の途中でやる気が削がれてしまった」

### 「就職活動に時間を割きすぎた」学生が 1 割強

Q. あなたは、大学時代につきのような経験がありましたか。



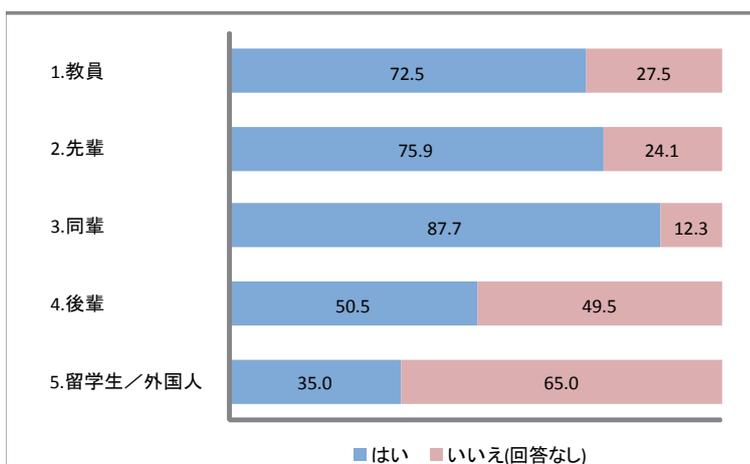
「A. 大学の途中でやる気が削がれてしまった」の項目について、「あてはまる」と回答した学生は 15.9%、「あてはまる + まああてはまる」で 5 割弱となる。「無回答」の 2.2% を除けば、肯定的な回答をした学生の割合は半分以上になるとの結果である。また、「B. 専門用語などが説明なしに使われ、授業についていけなかった」と「C. 専門課程を修得するだけの能力や前提となる知識を欠いていた」の二つの項目についての回答は、「あてはまる」で、それぞれ 12.1%、14.8% であり、「まああてはまる」とあわせると、それぞれ、45.1%、50.5% に達している。

その一方、「D. 勉強したい専門がなかった」の項目について、「あてはまる」との回答はわずか 4.1% で、「まああてはまる」とあわせても、2 割以下にとどまっている。また「E. 就職活動に時間を割きすぎた」について、「あてはまる」と回答する学生は 3.2% にすぎず、「あてはまる + まああてはまる」で、12.4% である。

## 教員との学問的交流は、約 4 分の 3

### 後輩とは 5 割にとどまる

Q. 次のような人と学問的な交流がありましたか。



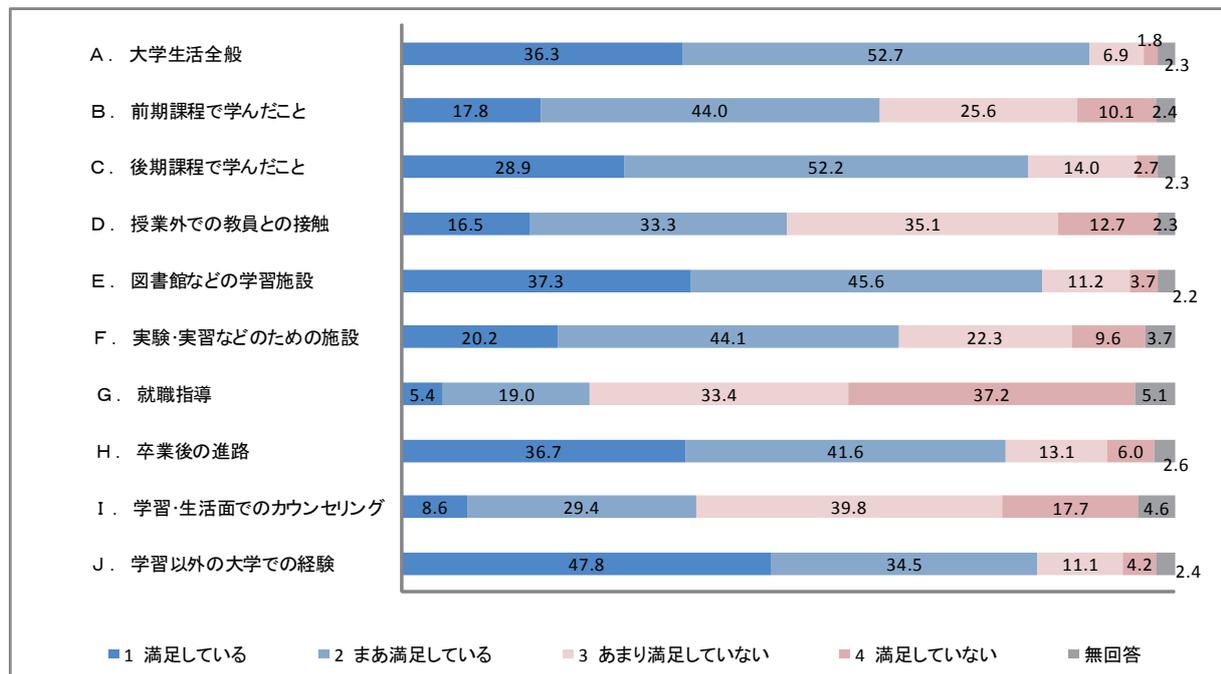
学問的な交流のあり方についてみていくと、教員との交流は 72.5% となる。教員との交流がないという状況がどのように生じるのか—学生が大学から離れてしまっているのか、あるいは、教育体制にあるのか—など、その原因を探っていくことが必要となると考えられる。

大多数の学生にとって、同輩とは、学問的な話をする機会があるとみられ、87.7% が交流があると答えている。教員よりも先輩の方が若干高くなることも見逃せない (75.9%)。研究室や学科など、先輩との繋がりが機能していることがわ

かる。その一方、後輩では 50.5% にとどまる。留学生、外国人との学問的交流は、35.0% にとどまり、外国の方と学問的な交流をする機会はそれほど整っていないとみるべきだろう。

## 満足度：9 割弱満足 前期課程より後期課程のほうが満足度が高い 就職指導への満足度は低いが、卒業後の進路についての満足度は高い

Q. あなたの大学生生活をつうじた満足度についてお聞きます。



「A. 大学生活全般」について、「満足している」(36.3%)と「まあ満足している」(52.7%)と回答した学生の割合は89.0%に達している。教育に関しては、「B. 前期課程で学んだこと」と「C. 後期課程で学んだこと」の項目で、「満足している+まあ満足している」と回答した割合は、それぞれ61.8%、81.1%となっている。

「D. 授業外での教員との接触」についての満足度は、「満足している」と回答した割合は16.5%で、「まあ満足している」(33.3%)とあわせれば、約5割となっており、A～Cにくらべてやや低い。「E. 図書館などの学習施設」と「F. 実験・実習などのための施設」に対する満足度は、比較的に高く、「満足している+まあ満足している」と回答した割合は、それぞれ82.9%、64.3%となっている。

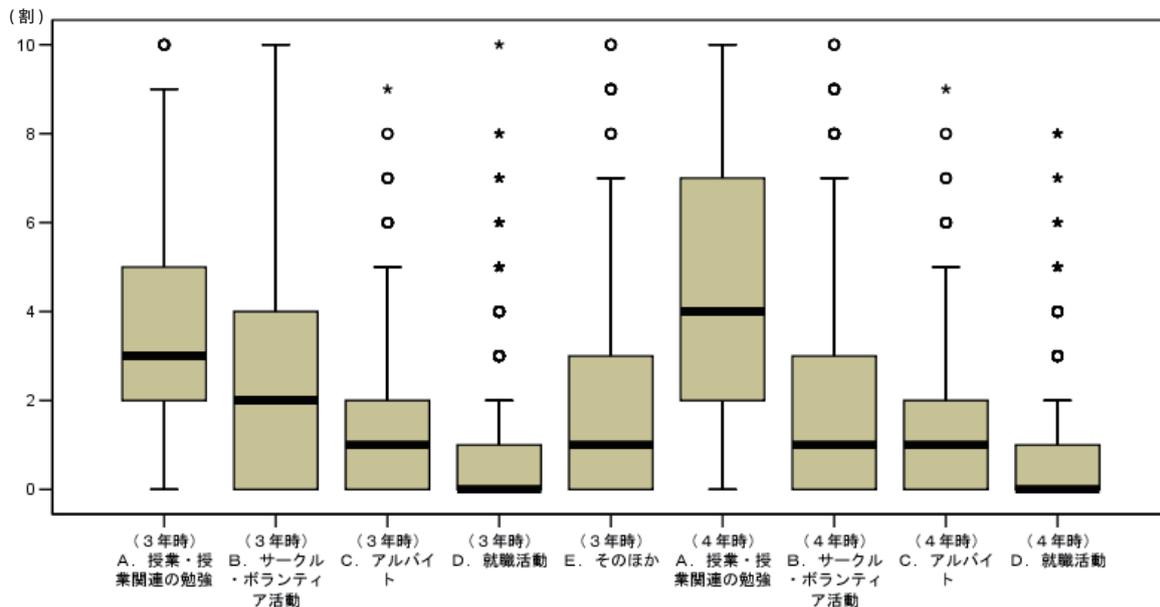
「G. 就職指導」に対して、「満足している」との回答はわずか5.4%で、「まあ満足している」(19.0%)とあわせて、24.4%にすぎない。しかし、「H. 卒業後の進路」には、「満足している」と回答した割合は36.7%、「まあ満足している」の割合は41.6%で、両者あわせると、78.3%に達している。しかし、この回答者には、卒業後、大学院に進学する者も含まれていることを留意すべきである。

「I. 学習・生活面でのカウンセリング」については、「満足している」との回答は8.6%で「まあ満足している」(29.4%)と、あわせて38.0%となっており、満足度が高いとはいえない。これに対して、「J. 学習以外の大学での経験」について、「満足している」(47.8%)、「まあ満足している」(34.5%)と回答した割合は、82.3%に達している。

## 時間配分：授業・授業関連の勉強に力を入れている

### 4年生でさらにその傾向は強まる

Q. あなたは、次のような項目に、時間をどのように配分していましたか。



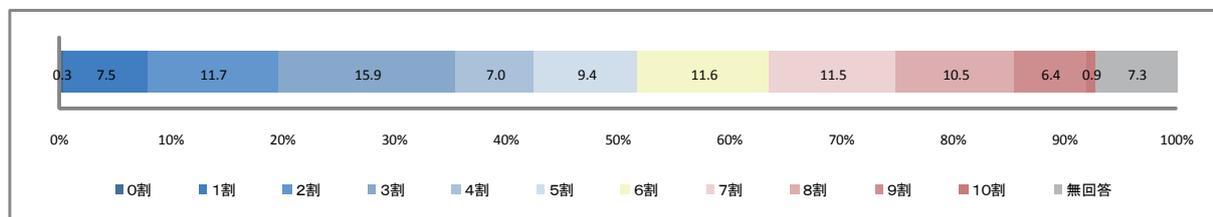
箱ひげ図：中央の太線は中央値、箱の中に50%が収まる（箱の上端が第1四分位点、下端が第3四分位点）。○および\*は外れ値。

それぞれの項目への時間配分を割合でたずねた質問である。箱ひげ図から読み取れることは、3年時においても4年時においても、最も力を入れているのは「A. 授業・授業関連の勉強」である。中央値をみると3年時には3割弱となるが、4年時には4割程度に増える。ただし、4年時には、分散もまた大きくなり、力を入れて勉強している人とそこそこの人の差が大きくなっている。

サークル活動の比重も高い。3年時の図をみると、授業・勉強との「箱」の部分の重なりが比較的大きいことがわかる。それに対して4年時には、中央値が1割に低下するとともに、勉強との間の「箱」の重なりが少なくなっていることがわかる。4年生では、勉強へのシフトが起きていることがわかる。

## 成績は、ばらついている

Q. あなたの成績についてお聞きします。「優」(A)は何割くらいありましたか。



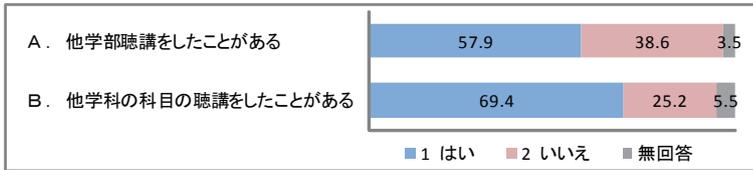
今回のサンプル全体で見た場合、成績はばらついているとみることができる。すなわち、両端（優の割合が0～1割、9～10割）で少なくなるものの、それ以外のカテゴリには若干の凸凹はあるものの10%程度の学生がいる。

ただし、これに関しては、学部間で成績をつける際の基準に差異がみられる可能性があり、その点についてはさらなる分析が必要となろう。

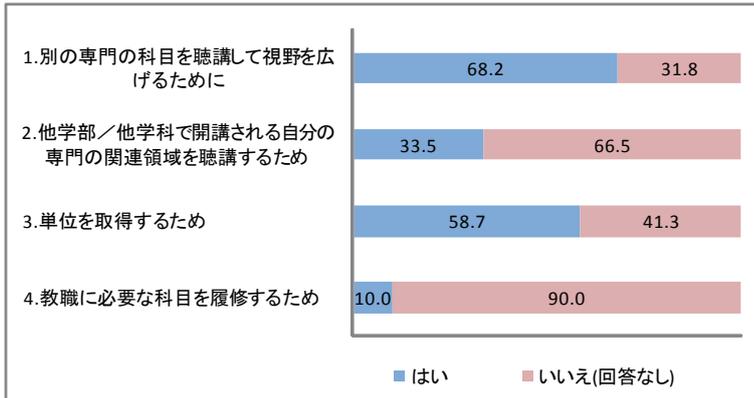
## 他学部聴講の経験者は約 6 割

### 視野を広げるための聴講が約 7 割

Q. 他学部聴講についてお聞きします。



Q. どういう意図で聴講しましたか。



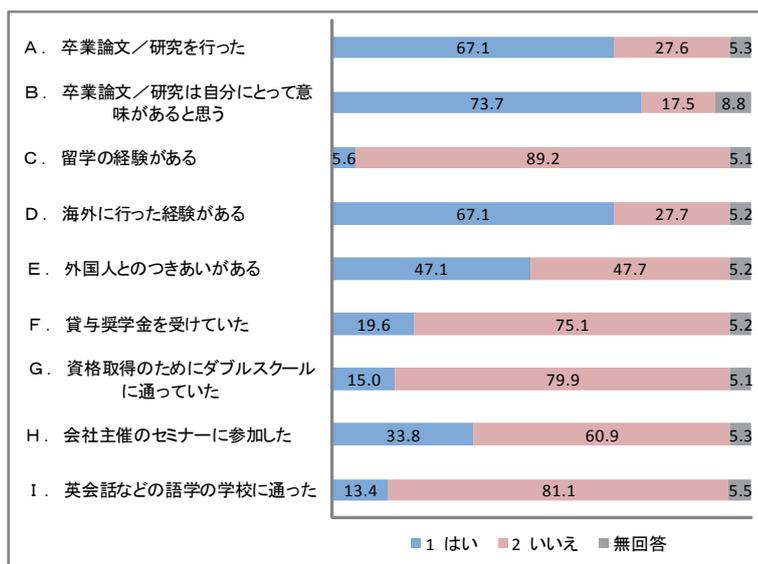
他学部聴講についてみていくと、聴講自体の経験者は 57.9% となり、比較的大勢の学生が他学部へと足を運んで授業を受けていることがわかる (1995 年に実施した同様の調査では 48%)。他学科聴講では、さらに多く 69.4% となる。ちなみに、表には載せていないが、他学部聴講も他学科聴講もしていない学生は 22.4% となり、かなり少なくなる。

他学部聴講の理由は、視野を広げるための聴講が (他学部聴講経験者の) 約 7 割を占めることが分かる。ただし、単位取得のためという理由での聴講も 6 割弱にのぼっていることに注意が必要となる。教職の取得のために他学部にという理由は 1 割にとどまる。

## 卒業論文の意味を感じる学生 : 約 7 割

### ダブルスクールは 1 割強

Q. 在学時の学習機会・経験についてお聞きします。



学習機会についてみていくと、特に大学が提供する学習機会の中で高評価を得ているのが卒業論文/研究である。「B. 卒業論文/研究は自分にとって意味があると思う」と答えている学生は 73.7% にのぼり、「A. 卒業論文/研究」を経験した学生の 67.1% にのぼる。卒論/卒研を経験していない学生もまた、その意味を評価しているということになる。

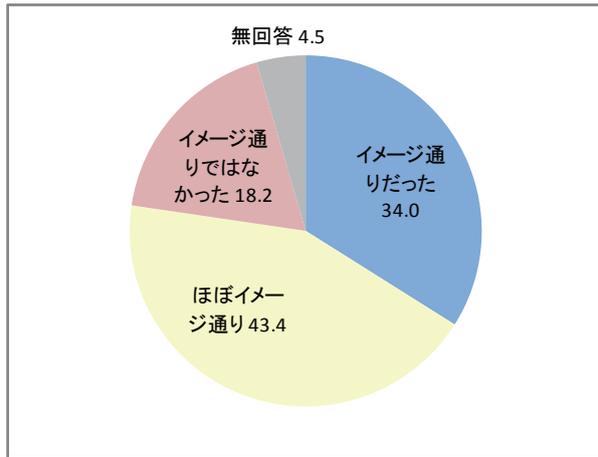
海外旅行の普及があるせいか、「D. 海外経験」は 7 割近くが大学生時代に経験するところとなっている。また、「E. 外国人とのつきあいがある」が 47.1% にのぼることにみられるように、外国人とコミュニケーション

する機会を持つ学生も一定数いるとみてよい。その一方で留学経験となると 5% 程度である。

「G. 資格取得のためのダブルスクール」や「I. 英会話などの語学の学校に通った」は、今回のサンプル全体でみると 15% 程度となる。

## 進学先がイメージ通りは約8割

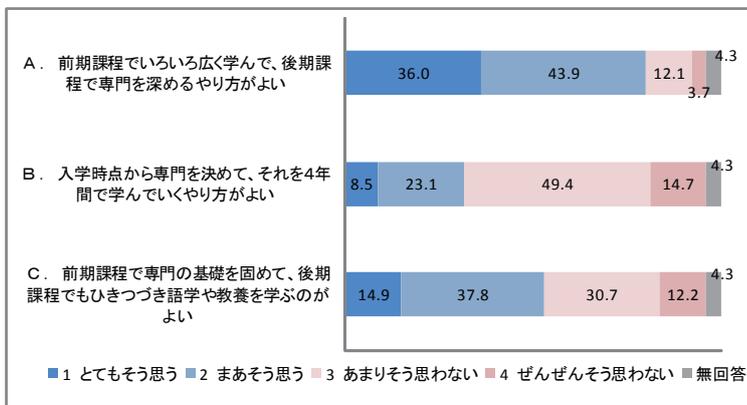
Q. 進学先は、進学前にイメージしていた通りでしたか。



進学先が、進学前にイメージしていた通りとする学生は、約3分の1、「ほぼイメージ通り」とする学生は、4割強で、あわせて約8割の学生がイメージ通りだったとしている。これに対して、イメージ通りではなかったとする学生は約2割で、このイメージと現実の齟齬の要因について、今後分析を進めていく必要がある。

## 教養と専門の学習の仕方については、「前期課程は幅広く、後期課程は専門を深める」という現行方式を評価する学生が8割以上だが、後期課程で語学や教養も必要という学生も過半数

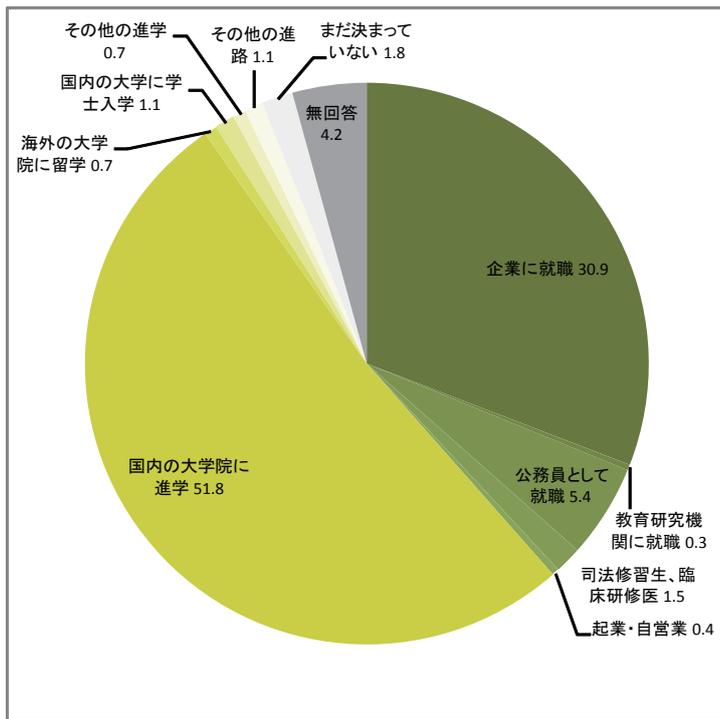
Q. 教養と専門の学習の仕方についていくつかの考え方があります。つぎの項目についてあなたはどのように考えていますか。



東京大学の独自の教育方式である前期課程での教養教育と後期課程での専門教育の組み合わせについて、学生の評価をたずねた。現行方式である「A. 前期課程でいろいろ広く学んで、後期課程で専門を深めるやり方がよい」について、「とてもそう思う」が約3分の1、「まあそう思う」が4割強で、あわせて約8割の学生が現行方式を評価している。これに対して、「B. 入学時点から専門を決めて、それを4年間で学んでいくやり方がよい」という学生は、約3割にすぎず、レイト・スペシャリゼーション (late specialization) を評価する学生が約3分の2となっている。ただし、「C. 前期課程で専門の基礎を固めて、後期課程でも引き続き語学や教養を学ぶのがよい」という方式を評価する学生も過半数に達しており、東京大学の学士課程教育全体については、まだ検討する余地があると考えられる。

## 4月からの進路予定：5割を超える学生が大学院に進学、企業に就職は3割

Q. 4月からの予定は、下の項目ではどれにあたりますか

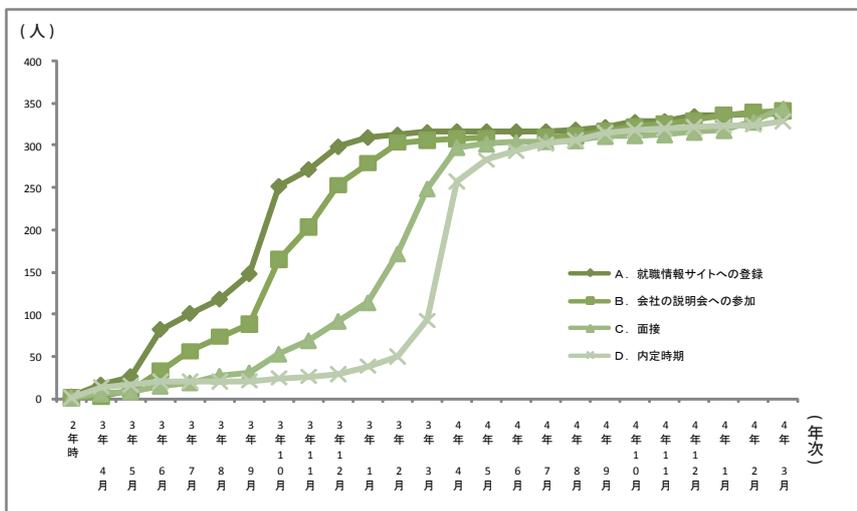


4月からの予定に関しては、「国内の大学院に進学」と回答した者の割合はもっとも高く、51.8%である。続いて、「企業に就職」が30.9%であり、この両者をあわせれば、8割を超えている。

残った2割の内訳は、「公務員として就職」5.4%、「司法修習生、臨床研修医」1.5%、「国内の大学に学士入学」と「その他の進路」が1.1%、「海外の大学院に留学」と「その他の進学」が0.7%、「起業・自営業」0.4%、「教育研究機関に就職」0.3%である。このように、学生は卒業時、多数の学生は進路を決めており、「まだ決まっていない」(1.8%)あるいは「無回答」(4.2%)とする学生はきわめて少数である。

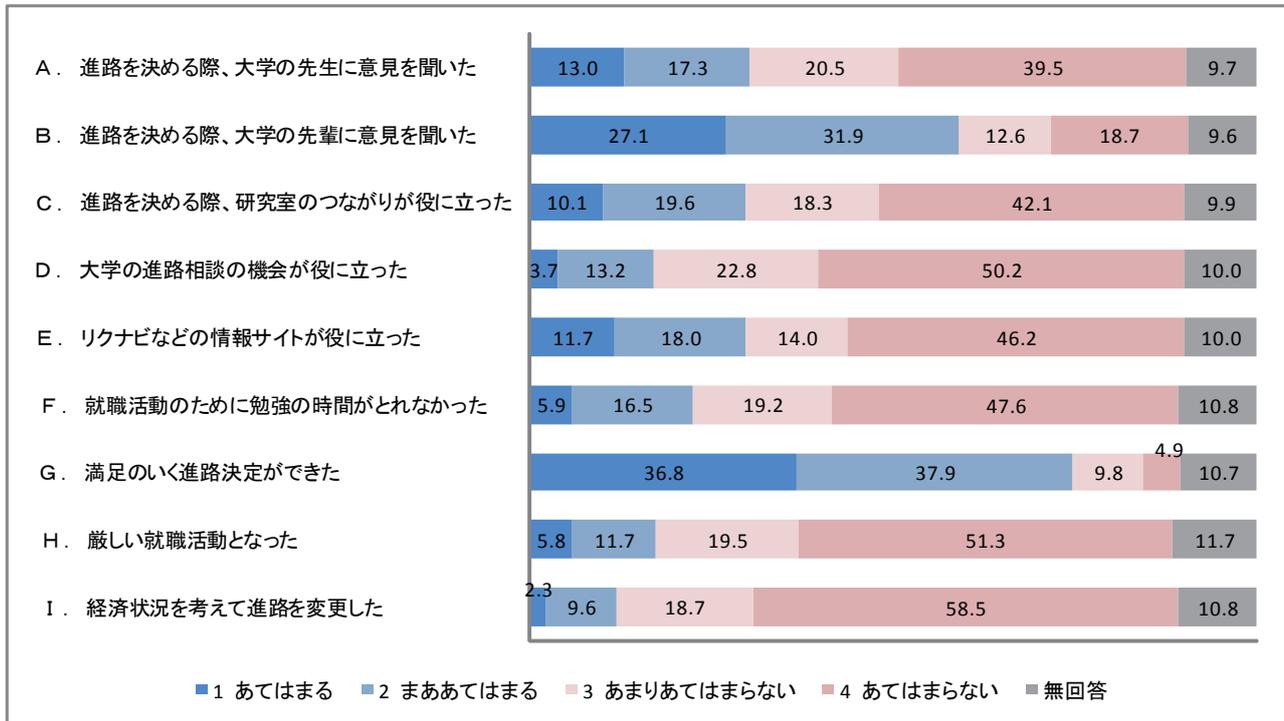
## 早期化する就職活動の現状と問題点

Q. あなたは就職活動をいつから始め、いつ内定をもらいましたか。(民間企業への就職活動を行った人のみ)



## 進路決定：「大学の先輩の意見」がもっとも重要 約4分の3の学生が「満足のいく進路決定ができた」

Q. あなたの進路決定のプロセスについてお聞きします。



進路の決定のプロセスについては、「あてはまる」と「まああてはまる」とあわせてみれば、「B. 進路を決める際、大学の先輩に意見を聞いた」と回答する割合がもっとも高く、59.0%である。続いて、「A. 進路を決める際、大学の先生に意見を聞いた」が30.3%で、「C. 進路を決める際、研究室のつながりが役に立った」と「E. リクナビなどの情報サイトが役に立った」が29.7%となっている。「D. 大学の進路相談の機会が役に立った」との回答の割合は16.9%にとどまっている。

「F. 就職活動のために勉強の時間がとれなかった」について、「あてはまる」との回答者は5.9%で、「まああてはまる」(16.5%)とあわせれば、22.4%となっている。これに関連して、「H. 厳しい就職活動となった」について、「あてはまる」と回答する学生は5.8%で、「まああてはまる」11.7%、両者があわせて、17.5%である。しかし、一般的に現在の就職状況は厳しいにもかかわらず、「G. 満足のいく進路決定ができた」について、「あてはまる」(36.8%)と「まああてはまる」(37.9%)をあわせれば、74.7%に達している。

連絡先：大学総合教育研究センター ホームページ：<http://www.he.u-tokyo.ac.jp/>  
内線：22390 問い合わせメールアドレス：cerd@he.u-tokyo.ac.jp 担当：大多和 まで

# NEWS

## 一般ニュース

### 本部人事給与グループ

今年度の定年退職教員は 67 名

一般

平成 22 年 3 月 31 日をもって本学を定年退職される予定の教員（講師以上）は、下記の教授 64 名、准教授 2 名、講師 1 名の計 67 名です。

部局	職名	氏名
大・法	教授	奥脇直也
大・法	教授	小早川光郎
大・法	教授	宮廻美明
大・法	教授	渡辺浩
大・工	教授	市川昌和
大・工	教授	岡芳明
大・工	教授	西郷和彦
大・工	教授	長島利夫
大・工	教授	難波和彦
大・工	教授	吉田眞
大・工	講師	山崎佳子
大・文	教授	逸身喜一郎
大・文	教授	今村啓爾
大・文	教授	上野善道
大・文	教授	薮勇造
大・文	教授	竹内整一
大・文	教授	藤田覚
大・理	教授	川島隆幸
大・理	教授	酒井英行

大・理	教授	野津憲治
大・農	教授	阿部啓子
大・農	教授	小野憲一郎
大・農	教授	小野寺節
大・農	教授	梶幹男
大・農	教授	空闲重則
大・農	教授	熊谷進
大・農	教授	杉山信男
大・農	教授	林良博
大・農	教授	横山伸也
大・農	教授	吉川泰弘
大・済	教授	岩井克人
大・済	教授	醍醐聰
大・済	教授	藤原正寛
養	教授	兵頭俊夫
大・養	教授	青木誠之
大・養	教授	旭英昭
大・養	教授	今井知正
大・養	教授	神野志隆光
大・養	教授	佐々木力
大・養	教授	柴宜弘
大・養	教授	下井守
大・養	教授	菅原正
大・養	教授	須藤和夫
大・養	教授	丹羽清
大・養	教授	米谷民明
大・養	准教授	森田昭雄
大・薬	教授	柴崎正勝
数理	教授	森田茂之
数理	准教授	五味健作
創域	教授	鳥海光弘
創域	教授	吉田恒昭
情理	教授	竹内郁雄
情理	教授	南谷崇
学環	教授	石上英一
地震	教授	金沢敏彦
地震	教授	佐野修
地震	教授	藤井敏嗣
地震	教授	渡辺秀文
東洋	教授	関本照夫
東洋	教授	中里成章
社研	教授	工藤章
社研	教授	小森田秋夫
生研	教授	藤森照信
生研	教授	山本良一
分生	教授	徳田元
物性	教授	渡部俊太郎
海洋	教授	宮崎信之

## 部局 ニュース



大学院人文社会系研究科・文学部



国際シンポジウム DIALOGUE ON DEATH  
AND LIFE : VIEWS FROM EGYPT (『死  
生をめぐる対話—エジプトからの眺望』)

人文社会系研究科を中心とする GCOE プログラム「死生学の構築と展開」は、昨年9月29日(火)から10月4日(日)にかけて、エジプト・アラブ共和国のカイロとアレクサンドリアにおいて、標記の国際シンポジウムを主催した。エジプト文化省の全面的支援のもと、エジプト高等文化評議会、アレクサンドリア図書館 Bibliotheca Alexandrina、NIHU イスラーム地域研究プログラム、日本学術振興会カイロ研究連絡センター、カイロ大学文学部社会調査センターとの共催である。この他に、在エジプト日本大使館からも多大な協力を得た。

このシンポジウムは、死生学プログラムにとって初めての中東・イスラーム圏における研究会議であったばかりでなく、日本とエジプトとの間で相互が全ての負担を平等に(経済面も含む)分かち合いつつ行われた、日本語学科以外の文系分野との史上初めての本格的学術会議であったと思われる。その意味では、両国間の学術・文化交流の転換点として評価され得よう。また、中東のムスリム(イスラーム教徒)やコプト・キリスト教徒との死生学を通じた対話、アレクサンドリア市民やエジプト民俗学界との本格的な知的交流と言う観点からも、極めて貴重な試みとなった。

行程を概観すると、まずカイロにおいては市内見学・踏査、エジプトのホスニ文化大臣主催のレセプションとカイロ開会セッション、そしてカイロ・シンポジウムという構成であった。このシンポジウム自体も、駐エジプト日本国大使の挨拶、島菌進リーダーによる講演、エジプトと日本の死生観にまつわる基調講演2本、「現世と来世・哲学・神学・宗教」、「靈魂と死後の生」の2セッション、全体討論、さらにナイル川船上での懇親などと、夜更けまで行事満載であった。

アレクサンドリアにおいては、死生学に関連する5種の墓地見学、アレクサンドリア図書館見学、図書館 Delegates' Hall での開会式(同図書館やアレクサンドリア大学、日本学術振興会カイロ研究連絡センター等からのスピーチを含む)、そして同図書館におけるシンポジウムという次第であった。シンポジウムには、フランスから招待したカーディー博士による基調講演、「死生と造形文化」「死者と身体性」「法から見た死生」の3セッション、スライドショー、総合討論、懇親会等が含まれ

ていた。

これら全ての講演・報告者や司会者も、エジプトと日本ではほぼ等分され、いずれの会場においても現地聴衆を含めた議論が沸騰し、予定の時限を超過した。日本からエジプトへ派遣されたメンバーは僅か11名に過ぎなかったが、参加者は延べ約350人にも達したであろうか。その中からは、他のアラブ諸国からの発表希望者や日本で死生学を学びたいという者まで現れた。

さらに驚いたのは、マスコミの取材攻勢である。TV(8局以上)、ラジオ、新聞・雑誌(30紙以上)の取材攻勢が続いたが、その全てには対応し切れぬ程であった。この反響にも鑑み、2011年には日本でシンポジウムの続編を行うことが既に決定されている。なお、会議の詳細については、死生学の DALS ニュースレター24号(<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/shiseigaku/>)をご覧ください。



カイロ・セッションの光景



アレクサンドリア図書館での会議風景



アレクサンドリア図書館での会議終了後に

大学院教育学研究科・教育学部

福島教授の特別授業が教育学部附属  
中等教育学校で行われる

部局

12月3日(木)に、教育学部附属中等教育学校において本学先端科学技術研究センター教授の福島智先生の授業「盲ろう者として生きて=コミュニケーションについて考える」が行われた。

授業の冒頭では、タレントの爆笑問題が福島研究室を訪問したテレビ番組の一部が流され、彼らを上回るユーモアで応対する先生の姿が映し出された。次いで指点字の紹介があり、配付された指点字表を頼りに、生徒の一人が指点字で先生の手で自己紹介をした。授業開始直後、生徒達は少し緊張した面持ちで福島先生を見守っていたが、このようなやりとりや次々繰り出される先生のユーモアですっかり緊張も解け、会場全体がリラックスした雰囲気の中で授業が進行した。

福島先生は9歳で視力を、18歳で聴力を失った。「想像を絶する孤独から自分を解放したのは『指点字』という『手段』の開発だけではない。指点字で対話する『相手』や『通訳』の存在こそが自分を絶望の淵から救ったのだ」。先生はこうしたご自身の経験を皮切りに、コミュニケーションの重要性や「障害」とは何かについてお話しになり、ヴィクトール・フランクルの「絶望」=「苦悩」-「意味」という図式を「意味」=「苦悩」+「希望」と変換して「苦悩の中で希望を抱くことに人生の意味がある」と語られた。そして最後に「自分の人生を自分でデザインしよう。ただし、どんな人間でも一人だけで生きることは絶対にできないからコミュニケーションを大切に」というメッセージで結ばれた。

終了後、生徒からは質問が相次ぎ先生の授業への関心の高さがうかがえた。「私には先生は健常者と同じように見えました。なぜなら先生は元気だしすごく面白いし楽しい人だからです。(1年)」「すごく先生の人柄が明るく最初は驚きました。(4年)」という感想や「障害者は辛く暗い人生を送っているように思う人が多いが、福島先生を見てわかるように明るくいし楽しいし健常者より人生楽しいかもしれない。そういうことを皆に感じてほ

しい。辛い悲しいという印象を取り払うのが一番大切だと思う。(6年)」とバリアフリーの本質に迫るような感想も寄せられた。



指点字で福島先生に自己紹介している生徒

大学院総合文化研究科・教養学部

三鷹国際学生宿舎で「三鷹市民と三鷹国際学生宿舎生との集い」開催される

部局

12月12日(土)11時から、三鷹国際学生宿舎(三鷹市)において、大学院総合文化研究科・教養学部主催、三鷹国際交流協会(MISHOP)共催、三鷹市後援により「三鷹市民と三鷹国際学生宿舎生との集い」が開催された。この集いは、宿舎に居住する宿舎生、特に約3割を占めている留学生と地域住民との交流を深めることを目的として毎年開催しているものであり、平成6年に第1回を開催して以来、今回で16回目となる。

集いは二部構成となっており、はじめに嶋田正和大学院総合文化研究科副研究科長・教養学部副学部長、及び河野康之三鷹市企画部長からの挨拶があった後、第一部として本村凌二総合文化研究科教授による「三世紀の危機と『三国志』-ローマ史と中国史-」と題した講演が行われた。講演は、比較史の面白さの説明から始まり、ローマ帝国と漢帝国とを比較し、世界史の同時代性について解説する内容で、一般の方でも知っているような作家の塩野七生さんやその著作「ローマ人の物語」、映画「レッドクリフ」などの話も交えて、とても分かりやすい説明で進められ、集まった約90名の参加者は皆とても熱心に聴講していた。



本村教授による講演

13時からは第二部として、懇親パーティーが行われた。清原慶子三鷹市長、及び菊地弘三鷹国際交流協会理事長の挨拶の後、宿舎生を代表して、奥田哲矢三鷹国際学生宿舎院生会幹事長の乾杯の発声によりパーティーが開始された。

パーティーの中では企画として学生によるパフォーマンスの披露があった。パフォーマンスは、運動会応援部による演舞から始まり、宿舎に居住している留学生の自己紹介、宿舎生の企画による歌と音楽演奏が行われた。応援部による演舞の最後には、東京大学、三鷹市へのエールがあり、応援部のリードに合わせ、参加者全員でエールを送るなど大きな盛り上がりを見せていた。



運動会応援部による演舞

音楽演奏は、唐津裕貴さんのピアノ伴奏で Sarah Alaiinn さんによる「Wishing you were somehow here again」の独唱から始まり、同じく Sarah さんによる「チャルダッシュ」のバイオリン演奏があり、最後に AIKOM 生全員による「3月9日」の合唱が行われ、参加者全員が聴き入るほど大変素晴らしいものだった。

パーティーには三鷹市民、三鷹国際交流協会会員、三鷹クラブ（旧三鷹寮OBの会）会員等の他に宿舎生も合わせ約160名が参加し、和やかな雰囲気の中交流が行われた。

最後に、平賀俊行三鷹クラブ代表、及び工藤駿宿舎生会委員長の挨拶があった後、木村秀雄大学院総合文化研

究科副研究科長・教養学部副学部長の閉会の挨拶をもって、15時に盛会のうちに終了した。



留学生の自己紹介



大学院総合文化研究科・教養学部

三鷹国際学生宿舎で「新年会」開催される

新しい年を迎えた1月9日（土）、三鷹国際学生宿舎において、共用棟を会場とした新年会が行われた。

この新年会は院生会（留学生をサポートするための大学院学生の組織）、宿舎生会（宿舎の全学生を構成員とする組織）が留学生を対象にして企画したもので、主な目的は、留学生に日本の正月文化を理解し、実際に体験してもらうことである。そのため餅や雑煮など日本の正月には欠かせない料理がふるまわれた。さらに書き初め、餅つき、はねつき、かるた、こまなども準備され、日本の伝統的な正月の習慣、遊びが体験できるようになっていた。



書き初めで今年の抱負をつづる留学生

予定の開始時間には参加者がまばらで不安を感じたが、時間とともに人数は少しずつ増えていき、最終的にはスタッフを合わせ60名程度となり、たいそうにぎやかな会となった。多くの留学生にとって、珍しいものばかりで皆、実に楽しそうにしていた。例えば、書き初めで、大学で習った漢字を熱心書いている留学生もいれば、水墨画を描いている留学生もいた。こまに悪戦苦闘したり、かるたに参加してみたりで大忙しな留学生がい

たり、また、あるグループなどは会場に設置されたこたつに入りながら、みかんを食べて、日本の正月を心身ともに理解したようであった。料理の方も気に入ってくれたようで、皆、つきたての餅を美味しく食べていた。



こたつにみかんで、暖をとる参加者

振り返ってみると、留学生が日本の文化を理解し、何よりも楽しむという目的は十分に達成されたと思われる。多くの留学生にとって、自分の故郷から遠く離れた日本で過ごした楽しい正月として、記憶に残ることを願っている。



かるたとりで勝負！

大学院医学系研究科・医学部



UT-CBEL 第2回 堀場 GABEX 国際会議 大盛況で終了

1月10日(日)から11日(月・祝)にかけて、大学院医学系研究科グローバルCOE「次世代型生命・医療倫理の教育研究拠点創成」(UT-CBEL)主催の国際会議・第2回 堀場 GABEX 国際会議「グローバルな生命・医療倫理の課題に対応する国際ネットワークの構築」が行われた。

UT-CBELはこれまで、海外の主要な研究機関とテレビ会議システムを用いたミーティングや、交換留学制度などをつうじて学術交流を深めてきた。1月の国際会議では、このネットワーク(通称GABEX [ギャベックス]: Global Alliance of Biomedical Ethics Centers)に加盟する8つの拠点からそれぞれ2名ずつ研究者を招

き、ライフサイエンスや医療の領域における、国際的な対応を迫られる倫理的・法的・社会的諸問題に関する生命・医療倫理のFrontline(最前線)、Frontier(新領域)、Future(未来)について講演を行った。

会議は2日間かけて行われ、一般参加者を含め延べ約400人の聴衆を集めた。

本会議の初日には、ポスターセッションも同時に開催された。9名の学内の若手研究者による発表は、いずれも生命・医療倫理に関連しつつ、研究倫理やエンハンスメントの問題を扱うもの、死生学や宗教学の立場に即したものの、さらには実証的な研究まで、内容はさまざまであった。国内外から多数の参加者が、終了時間を延長して、日英両言語で熱い議論を交わした。こちらも会議本体と同様、生命倫理の学際性と国際性を示す好例となった。

日本の生命・医療倫理研究の歴史はこれまで、海外から輸入した研究成果にもとづいて独自の展開を見せてきた。このことは会議の冒頭、UT-CBELのリーダーである赤林朗医学系研究科教授が、その足跡を詳細に辿って見せたとおりである(演題「日本の生命・医療倫理の過去と現在」)。

さらに近年は、渡航移植に関するルール作りや新型感染症への対策など、国際的な連携にもとづく対応を迫る問題が数多く現れてきている。したがって今後、生命・医療倫理に携わる各国の研究機関がネットワークを広げていくことはますます必要となるであろう。

UT-CBEL ウェブサイト: <http://www.cbhel.jp/>



海外拠点の研究者が一堂に会したパネル・ディスカッションの様子



若手研究者のポスターを真剣に見入る参加者



CBEL スタッフと海外拠点の研究者



ダミー人形による救出演習

大学院農学生命科学研究科・農学部  
自衛消防訓練を実施

1月18日（月）12時15分から約2時間にわたり、農学部5号館、農学部6号館、農学部7号館A棟、農学部7号館B棟、生命科学総合研究棟、農学生命科学図書館、IML棟において、平成21年度自衛消防訓練が本郷消防署の協力を得て分子細胞生物学研究所と共同で実施された。

各建物の各フロア計22ヶ所から火災が同時に発生したとの想定で、初期消火、火災報知器の発報、消防署等への通報等の訓練を行った。引き続き、各研究室からの避難誘導及び避難後の人員確認といった避難訓練では、実際に各フロアの防火戸を閉め、部屋に逃げ遅れた者がいないか確認しながら避難する等、実際に即した訓練を行った。

農学部では、この3年の間に全館にわたる訓練を終了した。

また、消防署によるダミー人形を使った救出演習や消防署のポンプ車による放水訓練の見学を行った。この放水訓練には、昨年実施した消防操法大会で優勝した本研究科の自衛消防隊も参加し、模範演技を披露した。

その後、農学部グラウンドに移動し、消火器を使用しての消火訓練を行った。昨年に引き続き、本研究科の要望により、普段の訓練に使用する水消火器ではなく、今回で3回目の実施となった、本当の火災に使用する粉末消火器で行った。その消火力や粉末の多さに参加者から感嘆の声が上がり、消火器取扱いの大切さを実感できた。

その後、文京区のご厚意による震度7弱を体感できる起震車及び煙ハウスを体験し、地震および火災の怖さを痛感した。

最後に本郷消防署より、消防署への情報の伝達の大切さと消火器の取扱いに気をつけるよう講評をいただき、生源寺眞一農学生命科学研究科長に代わり、長澤寛道安全衛生管理室長から、火を出さないことと、火が出た場合落ち着いて行動することが大切であるとのコメントをもって、約500名が参加した訓練は無事終了した。



放水訓練（中央が農学部自衛消防隊）



粉末消火器による消火訓練



震度7弱を体験する起震車

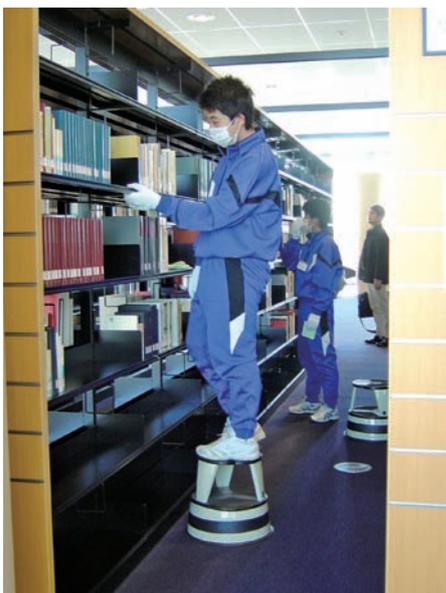


柏図書館は1月20日(水)～22日(金)に、柏市内の中学校から職場体験の受け入れを行った。職場体験は、「生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動」で、柏図書館では2年生2名が図書館業務を体験した。

体験内容は、図書のIDラベル貼付、返却図書の配架や書架の清掃、カウンターでの貸出・返却など様々な業務であった。

体験を終えた中学生から「図書館にいろいろな仕事があることが分かった」「時間が経つのに作業が捗らなくて焦った」「カウンター業務をもっとやりたかった」などの感想が寄せられた。

柏図書館の職場体験受け入れは初めてだったが、「柏図書館友の会」と併せて地域交流の一環として今後も協力していきたい。



書架整理の様子



自動化書庫から雑誌を取り出すところ



## あなたの撮った 写真を学内広報に 載せませんか？

学内広報では、教職員の皆さんが撮影した写真を募集します。あなたも自らの写真の腕を学内で披露してみませんか？

### ■応募条件

**1. 東大のキャンパス内で撮影した写真であること**  
本郷に限らず、東大の敷地内ならどのキャンパスでも可。また、キャンパス内で撮った写真であれば、風景写真でなくても可。人、動物、モノが写った写真でもかまいません。

### 2. デジタルデータで送付すること

撮影はデジタルカメラ、あるいはカメラ付き携帯電話で行い、デジタルデータ(jpeg、tifのいずれか)をメール添付で送ってください。

### 3. 1回の応募につき3枚まで受付

多量の写真データ送付はご遠慮ください。  
(添付ファイルの合計容量は5MBまで)

### ■掲載基準&掲載方法

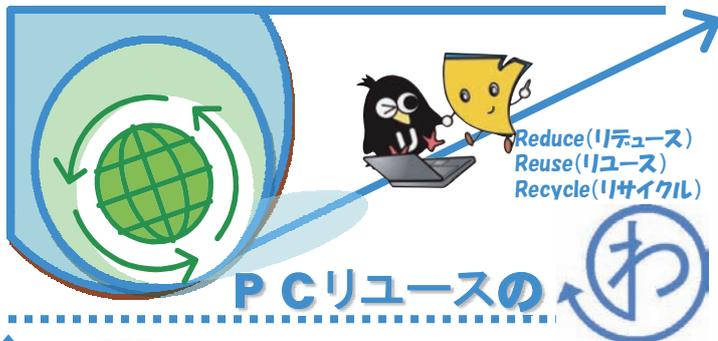
学内広報編集スタッフが独断と偏見に満ちたセレクション(笑)を行い、スペースの空いたページに掲載します。掲載の際には、「作品名」と「撮影者」のクレジットを記載します(匿名希望も可)。また、良い写真が多数集まった場合は、応募写真を紹介する特集、応募写真を紹介する連載なども予定しています。

### ■締切

特にありません。良い写真が撮れたら送ってください。

### ■送付先

本部広報グループ広報企画チーム  
「学内広報写真募集係」まで。  
E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



# PCリユースのわ

## 第④回 学生さんに聞いてみました

37台のリユースPCを学生さんに引き渡して早3カ月。リユースPCは問題なく学生さんに使われているでしょうか？委託業者の美津野商事さんも「学生さんからの反応は？」と心配そうです。そこで、実際に使用している学生さんに直接聞いてみることにしました。

古西里美さんは人文社会系研究科の修士課程2年で考古学の研究をしています。「修士論文の提出を2カ月後に控えた頃、入学以来5年半使ってきたノートPCが故障しました。かといって代わりのPCを早急に用意することもできず途方に暮れていたところ、ちょうどリユースPCの申請期間であることを知りました。新品ではありませんが、元來使用していたものよりスペックの高いものを借りることができ、それを使って修士論文も提出できました。私が返却した後も長く役立ってもらえるよう、大切に使っています。」研究成果が楽しみです。



研究室で

理学系研究科博士課程1年の野口卓也さんは、短期留学先のスイスからお便りをくれました。「研究や個人的な調べ物にノートPCが必須であり、このリユース事業にも興味を持ったので、利用させてもらっています。私は実験で学外に出かけることが多く、また現在、スイ



同僚とクリスマスパーティで

スのETH Zurich (チューリッヒ工科大学)に短期留学中ですが、このノートPCは留学先でもとても重宝しています。また、実験や解析では高性能とコンパクトさを求められているため、デスクトップPCとうまく使い分けています。」ETH Zurichは、アインシュタインも学んだ著名な大学ですね。お二人とも、リユースPCを研究や論文に大いに役立て充実した学生生活を送っているようです。2回目の募集では92台のリユースPCを用意しました。これからもリユースPCが沢山の学生さんの研究・学生生活に活躍することを願っています。(青)

### ★1月各部署ご提供PC★

理学部 32台 医学研究所 1台 薬学部 2台  
数物連携宇宙研究機構 1台

以上36台のノートPCは3回目の募集に利用させていただきます。どうもありがとうございました。引き続きよろしくお願いたします。

- 問い合わせ先：ノートPCリユースオフィス (本部資産経営G内)  
E-mail: pcreuse@adm.u-tokyo.ac.jp  
URL : http://pcreuse.adm.u-tokyo.ac.jp/  
内線: 22135 (担当 青木・高橋)
- ノートPC回収先：美津野商事株式会社システム事業部  
E-mail: reuse@mizuno.net (担当 川崎・石井)  
電話: 03-3943-0181 FAX: 03-3943-4180

科学技術振興調整費新興分野人材育成 科学技術インタープリター養成プログラム

## 研究をわかりやすく伝えるには

大島 まり

情報学環／生産技術研究所 教授  
科学技術インタープリター養成プログラム執行委員

最近、研究者が中学校や高校に向向いて行う出前授業や、一般の方々を対象にしたサイエンス・カフェが盛んに行われるようになってきた。このように科学技術の発展に第一線で携わっている研究者が、非専門家である一般の人々に自分の研究をわかりやすく伝えようとするアウトリーチ活動はさまざまな形で試みられている。一般に、科学技術におけるアウトリーチ活動とは、分かりやすく親しみやすい形で人々に科学技術を伝え、対話を通して人々の要望や不安をくみ取り、また自らの科学技術研究活動に反映させていくことをいう。アウトリーチ活動の場合には、伝える相手が学会のように興味・関心のベクトルが同じ方向に向き、また持っている知識も似たような集団ではない。私自身、1997年頃から中学・高校に向向いて出前授業を行っているが、最初はその距離感がなかなかつかめず、随分戸惑ったものである。経験だけは長いですが、正直言って、いまだにつかみ切れていないことが多い。わかったことは、コミュニケーションの基礎なのだろうが、相手を知ることである。相手がどのようなバックグラウンドであり、どのようなことに興味を持ち、どのようなことを考えているのか、少しでも知ることができれば、第一歩なのである。そして、相手と自分との接点を見出し、共有できる場を見つける、いわば、合コンのようなものである。個人的には悲しいかな、理系女子の悲しいサガで、あまり合コンに呼ばれたことがないが、なぜか合コンを頼まれて設定することが多かった。そのなかで、やはり盛り上がる合コンは、お互いの会話が盛り上がった時である。相手の関心を釘づけできるほど話術が巧みであれば話は別だが、そのような人は稀である。特に理系の方は、あくまでも一般論であるが、コミュニケーションの苦手な人が多い。だから、共通の興味や話題を見出すことが大事で、それを見つければ、会話が発展して盛り上がり、楽しくなる。一方、それがないと会話もとぎれがちで、シーンと、さびしい状態になってしまう。科学技術コミュニケーションを合コンに例え、少し横道にそれた感があるが(そもそも例えていいかという話もあるが)、ここで言いたいことは「共有できる場」を見つけることである。そして、その共有の場でお互いに共有できることに取り組むことだと思う。私たちがよく実験や実習を取り入れるのは、言葉で説明するよりも実際に取り組んでみた方が効果的だからである。実験することにより、共有できるゴールが見え、連帯感も生まれるし、成功したときの達成感も共有できる。アウトリーチ活動は、研究者に求められている研究や教育とは異なり、残念ながら重要性は低い。しかし、国民の見地からは、研究の意義や成果の社会還元などが理解できるような説明責任、いわゆる研究のAccountabilityが求められるようになってきている。特に、昨年行われた事業仕分けを見ていると、その傾向は今後、ますます強くなるであろう。共有する場から探らないといけない人々を相手にするのは億劫かもしれないが、コツを知れば、思ったよりコミュニケーションできるものなのかも知れない。研究をわかりやすく伝えることに、若い研究者も含めて多くの研究者に是非チャレンジしてもらいたい。

※この連載では、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースを、当センターの取り組みの様子、活動状況などと共にご紹介していきます。

Pick up research

研究進捗報告／技術ガバナンス研究ユニットより

## 科学技術と社会の共進化に向けて

技術ガバナンス研究ユニットでは、技術の変化に対応した制度革新のあり方や、技術に関わる多様な便益とリスクを踏まえて行う俯瞰的な社会意思決定支援の枠組みについて、公共政策大学院「科学技術と公共政策研究ユニット」における研究活動と連携しつつ、大学内、社会の様々な関係者との対話を踏まえて発信しています。これまでの主たる活動は以下の2つです。

### 1. エネルギー・環境政策に関する提言 (2009年6月)

#### 社会が選択するエネルギー・環境政策 技術政策と社会システム構築の連携に向けて

1. 柔軟性の強化
  - ①市場支援的手法の活用－認識情報資源の活用、組織間連携の促進
  - ②制度的手法の活用
    - －導入補助金から租税特別措置、炭素税や固定買取制度、排出権取引制度等へ
  - ③研究開発支援の充実
2. 包括性の確保
  - ①需要側からのエネルギー利用分析の充実化
    - －住宅、土地、交通分野での包括的社会ニーズ把握の重要性
  - ②単体技術の支援から「社会システム」の変化への支援へ
3. 頑強性の強化：エネルギー・インフラへの投資の強化
4. 多様な観点からの実効的議論が可能な横断的な場の確保

### 2. 原子力法制の課題抽出 (2009年7月)

#### 東京大学原子力法制研究会 社会と法制度設計分科会 中間報告

- (1) 運転段階におけるプロセス明確化－運転再開プロセス等
- (2) 立地プロセスの明確化－地域の社会的意思決定等
- (3) 自治体と事業者間の安全協定の課題－自治体側の責務、自治体における人材継承の問題
- (4) 規格基準の課題－国・事業者・メーカーの責任明確化の必要、規格戦略構築の必要
- (5) バックフィットの仕組みの明確化
- (6) 安全規制体制の選択肢－独立性確保、社会的信頼確保、専門的能力確保の必要

そのほかに、電子政府政策における業務改革、推進体制の課題、テクノロジーアセスメント(技術の社会的影響評価) 制度化方策や持続可能な社会への移行管理のあり方について、検討しています。今後は、海洋政策、宇宙政策の検討もしていく予定です。

#### 最近の活動および予定

持続可能な社会への移行に向けたトランジション・マネジメント  
－ヨーロッパにおける経験と日本の課題(共催、2010年2月13日、山上会館)

科学技術政策プロセスのオープン化  
－テクノロジーアセスメント(TA)の新たな潮流と我が国での制度化  
(共催、2010年3月9日、国際文化会館)

北極海のガバナンス  
－多様なステークホルダーと課題設定の諸相(共催、2010年3月10日、国際文化会館)



モンパルナスタワーから見たPARIならぬPARISの夜景。  
Wikimedia Commonsより。

#### 活動報告

### James V. Wertsch 教授 表敬訪問

1月5日、James V. Wertsch 教授(Director, McDonnell International Scholars Academy, Washington University in St. Louis)が政策ビジョン研究センターを表敬訪問された後、森田朗センター長を交えて松本洋一郎理事(副学長)と会談しました。

マクドネル・アカデミーは、世界各国から優秀な奨学生を集めてグローバル・リーダーに育てるというプログラムのために設置されたワシントン大学総長直轄の機関で、日本では東京大学だけが本プログラムのパートナーシップ校に選ばれています。東京大学からは2010年1月までに3名の奨学生が選出されました。



#### information

### クリニカルデータ国際シンポジウム

未来へ向けた電子化診療情報の利活用を考える

●日時：3月5日(金) 13:00～18:30

●場所：鉄門記念講堂(収容人数：300名程度)

是非ご来場ください。開催報告は次号に掲載します。

堀場製作所最高顧問  
政策ビジョン研究センター顧問

### 堀場 雅夫氏からのメッセージ

情報技術が進歩したにもかかわらず、有用な情報や知識が分断、死蔵され、活用されていないのが大きな社会的ロスである。医療分野はその最たる例だ。診療情報を統合、分析して活用できるようになれば、効果的な治療法のスピーディな普及、副作用情報のいち早い分析、地方における専門医の教育的画期的な充実など夢のフロンティアが広がっている。

ただ、一部グループは必ずしも賛成ではなく、壁にも直面するだろう。このようなフロンティアの開拓は、人類共通の課題であり、同じ意思を持つ国や研究機関と手をつなぎ、力を結集することで乗り越えて欲しい。今回始まる新しい試みに大いに期待したい。

## 政策関連用語集

政策ビジョン研究センターでは、各研究ユニットの最先端の研究内容をよりご理解いただけるよう、ホームページ上に政策関連用語集を作成しました。現在、知的財産権とイノベーション研究ユニット/医療におけるIT政策研究ユニット/安全保障研究ユニット/医療機器の開発に関する政策研究ユニット/航空政策研究ユニット/市民後見研究ユニット/再生医療政策研究ユニット/技術ガバナンス研究ユニット/生命・医療倫理政策研究ユニットの、9つの当センター所属研究ユニットより、キーワードを掲載しております。詳細はHPをご覧ください。

<http://pari.u-tokyo.ac.jp/unit/words.html>

<http://pari.u-tokyo.ac.jp>

## 太陽光エネルギー利用の未来 参加者殺到し、第二会場設置 第17回科学技術交流フォーラム開催



写真上:本会場の様子。補助のパイプ椅子も満席に。写真下:第二会場の様子。参加者からはゆったりとして聞きやすかったという感想も。

12月17日(木)本郷キャンパス山上会館2階大会議室において、東京大学産学連携協議会運営本部主催、第17回科学技術交流フォーラム「太陽光エネルギー利用の未来～大規模太陽光発電システムに向けた技術開発の現状と展望～」が開催されました。

太陽光エネルギーという昨今注目されているテーマだけに、定員150名の枠に約280名の参加申し込みがあり、急遽第二会場を設置する盛況ぶりでした。

本フォーラムでは、太陽光エネルギーに向けた太陽電池、蓄電・充電材料、またそれらを統合したシステムとグリッド連携の現状と成果を、太陽光発電技術の各分野の第一線で活躍する先端科学技術研究センター、工学系研究科を中心とした研究者と、(株)東芝、シャープ(株)と昭和シェル石油(株)からの産業界のリーダーが連携する形で講演し、参加者と今後の太陽光エネルギー利用を視野に、新たな産学連携のあり方について、活発な意見交換が行われました。

フォーラム後の交流会は、年末にもかかわらず多数の参加がありました。フォーラム会場と同様、交流会も熱気で包まれ、講師の方々、参加者が気軽に交流できる場となりました。

## クラウド・コンピューティングの 革命化でどうコラボするべきか？ 第4回起業・大学発ベンチャーセミナー開催

1月21日(木)本郷キャンパス情報学環福武ホールにて、東京大学産学連携本部/(株)ユニファイ・リサーチ2009年度産学連携共同シンポジウム、第4回起業・大学発ベンチャーセミナー「クラウド・コンピューティングと大学発ベンチャー」が200名を超える申し込みのもと、大盛況のうちに開催されました。

セミナーでは、最初にNTTコミュニケーションズ(株)先端IPアーキテクチャセンターの高間徹所長より「クラウド・コンピューティングが切り開く世界」をテーマに基調講演が行われました。調査データによると、現在クラウドコンピューティング(以下、クラウド)を利用している企業はまだ1割程度で、既存システムとの連携の難しさ、システムの信頼性・安全性、カスタマイズの自由度の低さなどが主な課題であることが報告されました。トータルコストが高くなるとするユーザーも多いとの調査結果には、会場から驚きの声があがりました。

その後のセッション報告では、大学発ITベンチャー3社の代表者より、クラウドを使ってビジネスを展開している報告があり、クラウドのメリット・デメリットが述べられました。

パネルディスカッションでは、「大学発ITベンチャーは、クラウドがなければ実現できなかったビジネスもある。クラウドは、新しいビジネスを作る可能性も秘めているので、品質改良して使いやすくなることを希望する。クラウドという概念は米国発なので、日本でそれに相当するようなのが、産学連携をする中で出てくることを期待する」という話題が出ました。



パネルディスカッションの様子:(左から)モデレーター・五内川拓史社長(株)ユニファイ・リサーチ)、パネリスト・長谷川克也特任教授(産学連携本部)、高間徹所長(NTTコミュニケーションズ(株)先端IPアーキテクチャセンター)、清田陽司助教(情報学環/(株)リッテル)、鎌田長明社長(株)情報基盤開発)、小倉豪哉社長(株)フィジオス)

## 産学連携ブラザインキュベーションルーム入居企業を募集します!

現在、産学連携ブラザインキュベーションルームにて入居企業を募集中です。

(<http://www.ducr.utokyo.ac.jp/kigyoincubation>)。

起業をお考えの研究者の方は、産学連携本部事業化推進部(seed@ducr.u-tokyo.ac.jp)までご連絡ください。

連絡先:産学連携本部(本部産学連携グループ)

電話:内線22857(外線03-5841-2857)

WEBサイト:<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUCR

検索

**DUCR**  
Division of University Corporate Relations  
The University of Tokyo

■今年もやります 其の巻 「御酒・春限定ボトル」



御酒・春限定ボトル(デザイン 見本)  
(掲載写真は昨年度のもので)

皆さん2010年を迎えいかがお過ごしでしょうか。今年もUTCCスタッフ一同全力で駆け抜けていきます!!今年もどうぞ宜しくお願い致します。

さて、今年も大人気企画の桜の模様が入った「御酒・春限定ボトル」の販売を予定しています。(予定:3月中旬~)

毎年卒業式・入学式シーズンに数量限定で販売しています。見た目も可愛いので是非皆さんお早めにいらして下さい!!

■今年もやります 其の式 「卒業記念 名入りマグカップ」



マグカップ名入れ(デザイン 見本)  
(掲載写真は昨年度のもので)

UTCCでは卒業シーズン限定でマグカップの名入れ企画も行っております。(予定:3月初旬~)お値段も商品代+800円とお手ごろ価格なのでプレゼントにされる方が非常に多いです。卒業される方、入学される方へのプレゼントにいかがでしょうか。

併せて、御酒の名入れサービス(別途料金追加)も行っております。スタッフ一同心よりお待ちしております!!

■UTCCスタッフおすすめの商品のご紹介!



公共政策学教育部 修士1年  
岸上 友香

こんにちは。UTCCスタッフの岸上です。私の一押し商品は東大検見川厚生農場(当時)で発掘された古代蓮の香り、“蓮香オードパルファム”です。

ひとふきすると、とても爽やかな香りが広がり、リラクゼーション空間を満喫できます。また、飽きのこない心地よい香りです。

容器がシンプルでお洒落なので、部屋に飾っておいても可愛い、優秀な商品です。

是非一度、お試し下さい!!

(担当: UTCC 山下)



東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

The University of Tokyo

OPEN: 月曜~土曜 10:30~18:30

電話: 03-5841-1039

http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp



ケータイからみた東大  
~東大ナビ通信~



東大ナビとは?

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。

加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メールマガジンで定期的にお届けします。学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用頂けます。

是非、東大ナビをご活用ください!



東大ナビ  
はじまる

ケータイでお得なイベント情報をGET!

詳しくは utnav.jp にアクセス。

または mail@utnav.jp に空メール!

東京大学 教育企画室



イベント情報を受けたい方

mail@utnav.jpに空メール送信!

- この記事のQRコードから
- mail@utnav.jp宛てにメール送信
- 携帯サイトutnav.jpにアクセスしてメルマガ登録ページへ
- ※携帯電話・PCどちらからも登録可能



返信メールから登録画面に入力!

- ご所属
- 性別・年齢など



登録完了!

- 登録確認メールが届きます
- 隔週でメルマガ・お得なクーポンGET!



イベントを宣伝したい方

携帯・PCサイトで申し込めます

- http://utnav.jpにアクセス
- イベント掲載フォームから送信!
- 追ってスタッフよりご連絡致します教育企画室TREEオフィスまで!
- 内線; 27823
- メール; info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
- オフィス; 本郷キャンパス 第二本部棟403号室

## 「明るく楽しく元気よく」 をモットーに！

農学系事務部長に就任して早3年、今年の3月で定年を迎える歳になりました。農学系事務部長のお仕事は、研究科長の円滑な組織運営を手助けするとともに、約100名の職員と60名の短時間有期雇用職員が安心して業務を遂行できるような体制づくりと職場環境の整備です。

私のモットーは、明るく楽しい職場作りです。まずは、朝の挨拶元気良くを心がけ、「おはよう」「元気？」「悩みない？」を口癖に事務部の中では、出来るだけ声をかけるようにしております。

(女性には回数が多いかもしれませんが？)

東大に勤務して最初に先輩から教えてもらったことは、朝の挨拶を元気よくすること、大きい声で「おはようございます」とみんなに聞こえるようにすることで自分の存在感を示せとも言われ、挨拶もできない人間は、ろくな仕事もできないという極論まで教えて頂きました。ですから、定年を迎える現在まで心がけていることの一つです。もう一つ教えてもらったことは、「ノミネーション」の必要性です。同期の会、先輩との飲み会、後輩との飲み会、職場での飲み会で(普段話せない人に話しかけるようにしています。)、相互理解を深め、コミュニケーション力をアップし、人的ネットワーク作りをすることが仕事をする上で重要であると教わりました。

私自身、お酒は弱いのですが、定年前恒例の送別会に参加して旧交を温め昔話に花を咲かせています。



myデスクにて、いつも部屋をオープンにして笑顔でみんなを待っています



昼休み恒例のソフトボール「いなぼら戦(役職者と若手チーム)」、試合後に全員集合して記念写真

得意ワザ：Never give up!

自分の性格：直球一本(単純で繊細?)

次回執筆者のご指名：貝田 綾子さん

次回執筆者との関係：

15年来の友人、弥生地区町内会会員

次回執筆者の紹介：

東大唯一の女性事務長：常に前向きです

## 募集

農学系事務部に勤務希望の方は、私に直接連絡して頂ければ相談に応じます。(元気で、明るくて、性格が良くやる気のある方を募集します。)

また、特典として、自衛消防隊入隊、防火・防災管理者、第一種衛生管理者等各種資格取得支援制度と附属施設への業務出張もあります。

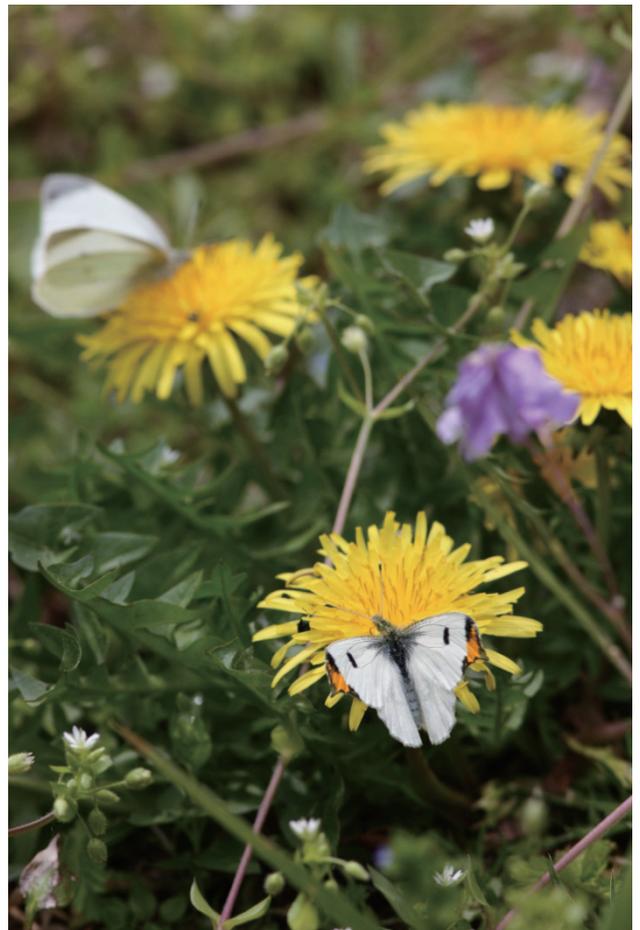
## 春の共演

昨年の春、薬学系研究科の前で、桜とチューリップがコラボしているのを見つけました。見事だったので思わず撮った1枚です。早く暖かくなるといいですね。

(撮影：産学連携本部 鈴木聡子さん)



## 復活した武蔵野の佐保姫 (Revival of Spring ephemeral)



普段は日本の蝶の絶滅危惧種の写真ばかり撮っています。今回はかつて武蔵野の自然の一部として多産したが高度経済成長と東京の開発に伴い一時姿を消した蝶。なぜか温暖化？とハナダイコン (*Hesperis matronalis*) の増加に伴い、近年白金台キャンパスで圧倒的に数を増やしている蝶ツマキチョウ (*Anthocharis scolymus*♂) の写真です。(平成21年4月5日白金台キャンパスにて撮影)

(撮影：医科学研究所 特任講師 長山人三さん)

# INFORMATION

## シンポジウム・講演会

### シンポジウム・講演会

地震研究所

#### 東京大学シンポジウム「長周期地震動とその都市災害軽減」

長周期地震動は、超高層ビル、大型石油タンク、長大橋といった大規模構造物の増加に伴い、防災上の考慮の対象として重要性を増しています。南海トラフなど海溝型巨大地震の発生が近づいているわが国に限らず、震源の地震動が長周期となりやすい巨大地震は世界中の様々な地域で起きており、影響が長距離に及ぶ長周期地震動は本質的に国境を越えた事象です。東京大学シンポジウムではこうしたグローバルな視点から、長周期地震動とその都市災害軽減の包括的かつ総合的な研究の方向性について討論します。

日時：3月17日（水）～18日（木）

場所：情報学環・福武ホール

言語：英語

参加費：無料

参加登録およびプログラムは

<http://taro.eri.u-tokyo.ac.jp/workshop/>

[ground\\_motionj3.html](http://taro.eri.u-tokyo.ac.jp/workshop/ground_motionj3.html)

をご覧ください。

主催：東京大学シンポジウム「長周期地震動とその都市災害軽減」組織委員会

## 募集

### 募集

本部学生支援グループ

#### 東京大学学生支援事業・平成21年度学生企画コンテスト

東京大学は、学生の皆さんから、学生ならではの創意にあふれ、本学で実施されるにふさわしい事業企画案を募集します。採用された企画は、企画立案者にも加わっていただき実施します。

本コンテストの目的は、東京大学憲章の精神に則り、本学構成員の一員である学生の皆さんに本学の事業に参加していただき、皆さんのアイデアと発想を活力あふれるキャンパスの創出に活かすことにあります。

「人間力」「国際的な力」あるいは「交渉力」「行動力」などを備えた「タフな東大生」として期待に応えられるような、斬新なアイデアに富む企画が多数寄せられることを期待しています。

1 主 催 東京大学

2 募集内容

知力に加えて、人間力と国際的な力を鍛え、たくましい交渉力と大胆な行動力を備えたタフな東大生を輩出できるような学生自らのアイデアによる「タフな学生養成企画」を広く募集します。

3 応募資格

本学に在学している個人もしくはグループ

4 評価基準

独創性、実施可能性、社会貢献性等を総合的に評価

5 選 考

受賞企画は、本学学生生活委員会のもとに設置された学生企画ワーキング・グループ（学生企画コンテスト実施委員会）が、1次選考（書類選考）・2次選考（プレゼンテーション選考）を経て決定します。

（1）書類選考（1次選考）

① 提出方法……………「企画書（様式1および様式2）」に必要事項を記入の上、電子メールにて添付ファイル（Word2007）で提出してください。

ア）企画書（様式1および様式2）以外の書類は提出できません。

イ）企画書（様式1）は枠内におさめること（2枚以上不可）

（※）「企画書」は本学ホームページよりダウンロードが可能です。

[http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/stu01/h16\\_j.html](http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/stu01/h16_j.html)

② 提出期限……平成 22 年 3 月 19 日 (金) 必着  
(※) 企画書を受領した時点で、学生企画コンテスト事務局から応募者 (団体) に確認メールを送信します。

③ 書類提出先……学生企画コンテスト事務局  
本部学生支援グループ学生生活チーム (担当: 山本・渡邊)  
〒 113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1 (第二食堂建物 2 階)  
TEL: 03 (5841) 2512、2524 FAX: 03 (5841) 2519  
E-mail: gakusei-kikaku@adm.u-tokyo.ac.jp

④ 書類審査合格企画の発表  
平成 22 年 4 月中旬、ホームページに掲載します。

(2) プレゼンテーション選考 (2 次選考)

書類審査合格者 (1 次選考採用者) に選考委員会の前でプレゼンテーション (7 分間) を行っていただき、質疑応答 (13 分間) の後、厳正な審査を経て受賞企画を決定します。

プレゼンテーション実施日 平成 22 年 5 月 [日時と場所: 後日、1 次選考採用者へ連絡]

(3) 賞

優秀賞: 3 点程度……賞状及び副賞  
佳作: 数点……賞状

6 審査結果の発表と表彰式

2 次審査の結果を応募者に報告し、6 月頃に表彰式を行う予定です。

受賞者及び受賞企画の内容は、本学のホームページや学内広報に掲載します。

7 授賞企画の実施

優秀賞に選ばれた企画の実施に際しては、大学が必要に応じて経費を負担します。事業は事務局関係者と協議し、平成 23 年 2 月 28 日 (月) までに完了していただきます。

8 企画実施報告

優秀賞および佳作のうち実施した企画 (実施中も含む) は、企画終了後学生企画コンテスト事務局に、企画実施報告書を提出していただきます。

9 お問い合わせ

応募状況など本コンテストについての質問は、学生企画コンテスト事務局までお問い合わせください。

10 その他

他のコンテストに既に応募していたり、他人の企画を模倣したと判断されたりしたものは、審査対象としません。授賞後にこれらの事実が判明した場合は、授賞を取り消します。

応募した企画書・企画書の記入事項・プレゼンテーション資料 (第三者の著作権等の権利を侵害する内容は除く) は、「学生企画コンテスト」ホームページで使用できる

ものとします。

## お知らせ

### お知らせ

#### 退職教員の最終講義

学内広報では、今年度末をもって本学を退職される方々の最終講義のお知らせを掲載します。

#### 大学院医学系研究科・医学部

##### 新家 眞 教授

(眼科学)

日時: 3 月 11 日 (木) 15:00 ~ 16:30

会場: 医学部臨床講堂

演題: 「緑内障への挑戦: ネズミ、猿、そしてヒトへ」

#### 大学院工学系研究科・工学部

##### 岡 芳明 教授

(原子力専攻・原子炉工学講座)

日時: 3 月 2 日 (火) 15:00 ~ 17:00

会場: 武田ホール

演題: 「原子力の研究教育プロジェクト」

##### 市川 昌和 教授

(物理工学専攻・物理工学講座)

日時: 3 月 3 日 (水) 16:00 ~ 17:30

会場: 工学部 6 号館 2 階 63 号講義室

演題: 「電子線と物質の相互作用の研究と応用」

#### 大学院理学系研究科・理学部

##### 酒井 英行 教授

(物理学専攻・量子多体物理学)

日時: 3 月 5 日 (金) 16:00 ~ 18:00

会場: 小柴ホール

演題: 「スピンでめぐった原子核物理学」

##### 川島 隆幸 教授

(化学専攻)

日時: 3 月 19 日 (金) 14:00 ~ 16:00

会場: 理学部化学本館 5 階 講堂

演題: 「リンとの出会いに始まり、典型元素と共に歩んだ 40 年」

**野津 憲治 教授**

(附属地殻化学実験施設)

日時：3月23日(火) 14:30～16:30

会場：小柴ホール

演題：「百歳を迎える地球化学：共に歩んだ四十年間の進展」

**大学院農学生命科学研究科・農学部****阿部 啓子 教授**

(応用生命化学専攻・生物機能化学講座・生物機能開発化学研究室)

日時：3月5日(金) 15:00～17:00

会場：弥生講堂・一条ホール

演題：「食品科学研究の新基盤—化学と生物のインタープレー」

**空閑 重則 教授**

(生物材料科学専攻・生物素材科学講座・生物素材科学研究室)

日時：3月10日(水) 16:00～18:00

会場：弥生講堂・一条ホール

演題：「セルロース・高分子・ナノ材料」

**梶 幹男 教授**

(附属演習林北海道演習林)

日時：3月12日(金) 15:00～17:00

会場：農学部1号館 8番教室

演題：「温暖化と樹木・森林—後氷期気候変動が樹木の分布に及ぼした影響についての研究から—」

**小野寺 節 教授**

(応用動物科学専攻・高次生体制御学講座・応用免疫学研究室)

日時：3月16日(火) 14:35～15:30

会場：弥生講堂・一条ホール

演題：「ウイルス性自己免疫病及び遅発性感染症の動物モデル」

**吉川 泰弘 教授**

(獣医学専攻・病態動物医学講座・実験動物学研究室)

日時：3月16日(火) 16:35～17:30

会場：弥生講堂・一条ホール

演題：「視野を広く思いは遠く」

**大学院総合文化研究科・教養学部****森田 昭雄 准教授**

(広域科学専攻・相関基礎科学系)

日時：3月5日(金) 13:00～14:30

会場：駒場Iキャンパス 18号館ホール

演題：「シュレーディンガー方程式の微笑」

**下井 守 教授**

(広域科学専攻・相関基礎科学系)

日時：3月5日(金) 14:30～16:00

会場：駒場Iキャンパス 18号館ホール

演題：「ホウ素とともに三十年」

**須藤 和夫 教授**

(広域科学専攻・生命環境科学系)

日時：3月11日(木) 15:00～17:00

会場：駒場Iキャンパス アドミニストレーション棟  
3階 学際交流ホール

演題：「分子機械としてのタンパク質モーターの構造・機能・進化」

**山崎 泰規 教授**

(広域科学専攻・相関基礎科学系)

日時：3月12日(金) 13:40～14:40

会場：駒場Iキャンパス 18号館ホール

演題：「耳不順」

**兵頭 俊夫 教授**

(広域科学専攻・相関基礎科学系)

日時：3月12日(金) 15:00～16:00

会場：駒場Iキャンパス 18号館ホール

演題：「陽電子・ポジトロニウムを楽しむ」

**米谷 民明 教授**

(広域科学専攻・相関基礎科学系)

日時：3月12日(金) 16:20～17:20

会場：駒場Iキャンパス 18号館ホール

演題：「素粒子論の40年と私」

**菅原 正 教授**

(広域科学専攻・相関基礎科学系)

日時：3月19日(金) 15:00～17:00

会場：駒場Iキャンパス アドミニストレーション棟  
3階 学際交流ホール

演題：「分子で紡ぐシナリオ—生命システムまでの30年の道程—」

## 大学院教育学研究科・教育学部

### 衛藤 隆 教授

(身体教育学コース・健康教育学分野)

日時：3月20日(土) 16:00～17:30

会場：椿山荘1階 ペガサス(文京区関口2-10-8)

演題：「子どもの健康－肝炎予防から健康と安全の推進へ」

## 大学院薬学系研究科・薬学部

### 佐藤 能雅 教授

(機能薬学専攻)

日時：3月8日(月) 14:00～16:00

会場：薬学系総合研究棟2階 講堂

演題：「蛋白質の三次元構造とX線解析」

### 柴崎 正勝 教授

(有機合成化学教室)

日時：3月12日(金) 13:00～15:30

会場：薬学系総合研究棟2階 講堂、南館 南講義室(モニター中継)、西館 西講義室(モニター中継)

演題：「21世紀の医薬品合成」

## 大学院新領域創成科学研究科

### 鳥海 光弘 教授

(複雑理工学専攻)

日時：3月10日(水) 15:30～17:00

会場：柏キャンパス 基盤棟大講義室

演題：「地球内部のレオロジーと変成作用」

## 大学院情報理工学系研究科

### 南谷 崇 教授

(システム情報学専攻・先端システム情報学講座)

日時：3月3日(水) 15:00～16:30

場所：工学部11号館 講堂

演題：「ディペンダブルコンピューティング－情報社会の安全と信頼を創る－」

### 竹内 郁雄 教授

(創造情報学専攻・創造情報学大講座)

日時：3月3日(水) 16:30～18:00

場所：工学部2号館1階 213 講義室

演題：「研究・開発は楽しく」

## 地震研究所

### 佐野 修 教授

(地震地殻変動観測センター)

日時：3月19日(金) 10:00～11:00

会場：地震研究所2号館 第1会議室

演題：「地殻応力を測る－深部掘削を目指して－」

### 渡辺 秀文 教授

(火山噴火予知研究センター)

日時：3月19日(金) 11:00～12:00

会場：地震研究所2号館 第1会議室

演題：「火山との対話：活動予測をめざして」

### 金沢 敏彦 教授

(地震地殻変動観測センター)

日時：3月19日(金) 13:30～14:30

会場：地震研究所2号館 第1会議室

演題：「海底観測地震学の進展と私」

### 藤井 敏嗣 教授

(火山噴火予知研究センター)

日時：3月19日(金) 14:30～15:30

会場：地震研究所2号館 第1会議室

演題：「マグマをめぐる40年：岩漿論からマグマ学へ」

## 東洋文化研究所

### 関本 照夫 教授

日時：3月11日(木) 14:00～15:50

会場：東洋文化研究所3階 大会議室

演題：「モノ・人・仕事－人類学的小括と展望」

### 中里 成章 教授

日時：3月11日(木) 16:00～17:50

会場：東洋文化研究所3階 大会議室

演題：「バル判事－インド・ナショナリズムと東京裁判－」

## 生産技術研究所

### 山本 良一 教授

(サステイナブル材料国際研究センター)

日時：3月16日(火) 13:30～15:00

会場：駒場Ⅱキャンパス 総合研究実験棟(An棟)  
2階 コンベンションホール

演題：「材料科学からサステナビリティ学へ」

### 藤森 照信 教授

(人間・社会系部門)

日時：3月16日(火) 15:30～17:00

会場：駒場Ⅱキャンパス 総合研究実験棟(An棟)  
2階 コンベンションホール

演題：「日本近代建築研究の足取り」

## 分子細胞生物学研究所

徳田 元 教授

(分子機能・形成部門細胞形成研究分野)

日時：3月12日(金) 15:30～16:30

会場：農学部2号館2階 化学第1講義室

演題：「タンパク質の"仕分け"機構を探求して」

## 物性研究所

渡部 俊太郎 教授

(先端分光研究部門)

日時：3月4日(木) 15:20～17:25

会場：柏キャンパス 物性研究所本館6階 大講義室

演題：「極限レーザーとの歩み」

### お知らせ

大学院人文社会系研究科・文学部

#### 「三友館」の開設について

大学院人文社会系研究科・文学部では、学生と大学院生が自由に使える学びの場として「三友館」を開設しました。安田講堂を臨む法文2号館3番大教室を改修して、自習室、ディスカッションルーム、ホワイトエ、ロッカーを設けました。大学院人文社会系研究科・文学部から発行されたIDカードを使って自動扉から入室することができます。自習室の利用はこのIDカードの所持者に限定されていますが、ディスカッションルームとホワイトエはIDカードの所持者と一緒に入館した他部局の学生や大学院生も利用することができます。自習室とディスカッションルームにはコンピュータ用電源コンセントとインターネット接続端子があります。自習室には机と椅子が63席あり、静粛な環境で勉強することができます。ディスカッションルームには机20卓と椅子32脚があり、人数に応じて自由に並べ替えることができます。これらの室には黒田哲也氏(1957年文学部卒業生)から寄贈された絵画が飾られています。ホワイトエは友人と雑談ができる場であり、その横にはロッカー230個が設置されています。三友館の開室時間は平日の8時30分から20時20分までです。三室は1月20日から利用できますが、ロッカーは新年度に割り当てます。

「三友館」の名称は、『論語』季氏篇の「益者三友」の説に因んでいます。原文は「孔子曰：益者三友，損者三友：友直，友諒，友多聞，益矣；友便辟，友善柔，友便佞，損矣。」であり、「直」(正直な人)、「諒」(真心のある人)、「多聞」(博学な人)を友とすればためになり、「便辟」(へつらう人)、「善柔」(良い顔をする人)、「便佞」(口達者な人)を友とすれば害になる、という意味です。どのような人と友になるか、あとが楽しみです。

「三友館」が学生・大学院生の皆さんの勉学、談論、交遊の場として長く活用され、益あることを願っています。



自習室



ディスカッションルーム

### お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

#### 「教養学部報」第527(2月3日)号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、駒場保健センターで無料配布しています。バックナンバーもあります。

第527号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

金久博昭：第60回駒場祭

杉之原真子：シンポジウム「ジェネリック・スキルとしての討議力」

新井仁之：目の錯覚の謎と数学

松原宏：総合文化研究科・教養学部第三期運営諮問会議～第二回会議について

福島孝治：交換モンテカルロ法の創出と展開

遠藤泰生：地域文化研究専攻第17回公開シンポジウム「地域文化研究の現場から」

〈駒場をあとに・おくることば〉

今井知正：分析について

野矢茂樹：タチバナ氏と今井知正先生のことで立ち話

佐々木力：数学史研究の世界的前線をめざして  
古矢旬：佐々木力先生を送る  
米谷民明：駒場よ、さようなら  
風間洋一：駒場の哲人——米谷先生を送る——  
森田茂之：駒場の思い出  
古田幹雄：森田茂之先生を送る

〈時に沿って〉  
内田さやか：駒場にて

## お知らせ

本部広報グループ

### 広報センターの臨時休館のお知らせ

いつも格別のご協力を戴き、ありがとうございます。  
第2次学力試験（前期日程）の実施に伴い、次の両日を  
休館とさせていただきます。どうぞご了承のほどお願い  
いたします。

2月25日（木）・26日（金）

## お知らせ

分子細胞生物学研究所

### 第3回技術発表会開催のお知らせ

分子細胞生物学研究所では、以下の予定で今年度の技  
術発表会を開催することになりました。

日時 3月2日（火）13:00～15:30  
会場 インテリジェント・モデリング・ラボラトリー  
（IML）3階小会議室  
参加費 無料  
問い合わせ先 [tasakura@iam.u-tokyo.ac.jp](mailto:tasakura@iam.u-tokyo.ac.jp)

プログラム

[技術発表]

「膜蛋白質の微量結晶化」

生体超高分子 杖田 淳子

「セルソーターを用いた肝臓の研究」

機能形成 齋藤 滋

「東京大学技術職員研修 報告」

細胞形成 横田 直子

「糖新生系酵素の遺伝子発現を調節する新規転写因子の  
解析」

核内情報 井上 絵里奈

[特別講演]

「大学における内容不明な実験廃棄物の分析と処理—工  
学系等安全衛生管理室 実験不明廃棄物処理ワーキング  
グループの活動について—」

工学研究科応用化学専攻

技術専門職員 栄 慎也

## お知らせ

情報基盤センター

### 新学期に向けて“情報探索ガイダンス”のご案内

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・  
論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”  
各種コースを開催しています。

実習を交えた、わかりやすい説明で好評です。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どな  
たでも参加できます。ぜひご参加ください。

●日程・コース概要：

■3/3（水）12:10～12:40

電子ジャーナルで論文を入手（30分のクイック講習会）

電子ジャーナルで目的の雑誌論文を入手する方法をコ  
ンパクトに解説します。

■3/4（木）12:10～12:30

自宅から検索するには？（20分のワンポイント講習会）

自宅からデータベースや電子ジャーナルを使う方法だ  
け、知りたい。そんな方にお奨めなのが、このコース。  
ECCSアカウント認証によるSSL-VPN Gateway サービ  
スを紹介します。

■3/5（金）12:10～12:40

海外の新聞記事を探すには？（30分のクイック講習会）

ProQuest Newspapers, LexisNexis Academic などで  
海外の新聞記事を探す方法をまとめてコンパクトに紹介  
します。

■3/9（火）12:10～12:40

Web of Science を使うには？（30分のクイック講習会）

Web of Science は、全分野の主要学術雑誌に掲載さ  
れた論文のデータベースです。基本的な検索方法のほか、  
引用文献を手がかりとした検索などについて、コンパク  
トに解説します。

■3/10（水）16:00～17:00

EndNote Web を使うには？

Web 上で使える文献管理ツール「EndNote Web」の  
基本的な使い方を説明します。データベースからのデー  
タの取り込み方、参考文献リストの自動作成方法などを  
実習します。

■3/12 (金) 16:00 ~ 17:00

文献リストをサクッと作成～RefWorksを使うには～

Web上で使える文献管理ツール「RefWorks」の基本的な使い方を説明します。データベースからのデータの取り込み方、参考文献リストの自動作成方法などを実習します。

●会場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー

●参加費：無料

●予約不要

各回先着12名。直接ご来場ください。

●ご希望にあわせた内容で出張講習します。

ご希望の内容、日時、会場などに応じたオーダーメイドの講習会を承っています。既成の講習会では物足りない、という方にお奨めです。

卒論指導や進学予定者のガイダンスなど、授業の1コマや、ゼミなどにご活用ください。

ご希望の内容、日時、会場、人数、連絡先を、メールで下記までご連絡ください。(無料)

下記サイトをご参照ください。

(<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>)

●データベースや講習会情報をお届けします。

Litetopi メールマガジン発信中。

当係発行のLitetopi(リテトピ)メールマガジンは、本学所属の方を対象に、各種データベースのニュースや講習会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、下記アドレスまでメールでご連絡ください。(無料)



[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

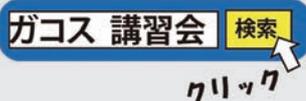
●お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649 (内線：22649)

[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

まずは



お知らせ

本部学生支援グループ

第56回東京地区国公立大学連合文化会美術展(国公立展)のご案内

都内国立大学11校の美術系サークルの作品が一同に会する展覧会「東京地区国公立大学連合文化会美術展 都内国立大学11校美術部合同展」(国公立展)が今年は東京外国語大学が当番校となり、下記の日程にて開催されます。

この美術展は、実施までおよそ1年をかけ、学生が主体となって企画、準備を行うもので、テーマ(今年は“東京”)に基づく各大学の共同作品等、多種多様な作品が出展され、学生間の交流を促進するとともに、活動意欲を刺激する場となっています。

本学からは毎年、美術サークル(本学届出学生団体)が参加しています。是非、この機会に学生達の成果をご覧ください。

日時：3月5日(金)～3月10日(水)

3/5(金) 12:00～18:30(入場は18:00まで)

3/6(土)～9(火) 10:00～18:30(入場は18:00まで)

3/10(水) 10:00～17:30(入場は17:00まで)

場所：○美術館(JR山手線大崎駅東口より徒歩1分・大崎ニューシティー2号館2F)

入展料：無料



参加大学：

- お茶の水女子大学、
- 首都大学東京、
- 電気通信大学、
- 東京大学、
- 東京医科歯科大学、
- 東京外国語大学、
- 東京海洋大学、
- 東京学芸大学、
- 東京工業大学、
- 東京農工大学、
- 一橋大学 (with 津田塾大学) (50音順)

HP：<http://jfn.josuikai.net/circles/culture/h-t-bijutsu/kokkouritsu2010/>

【本件に関する問合せ先】

本部学生支援グループ学生生活チーム 山田・山形

TEL：03-5841-2458・2514 (内線 22458・22514)

## お知らせ

### 情報基盤センター

#### 教育用計算機システムの継続利用手続きについて

情報基盤センター教育用計算機システム（ECCS）を利用している者が、引き続き平成22年度も利用する場合は継続利用の手続きが必要となります。

##### ○教職員の場合

3月中に「教育用計算機システム継続利用申込書」を学内便でお送りしますので、必要事項をご記入のうえ、情報基盤センター情報教育支援係宛に提出願います。

##### ○学生の場合

4月～6月の期間に、情報基盤センター（浅野キャンパス）、情報教育棟（駒場キャンパス）、柏図書館（柏キャンパス）で平成22年度用パスワードの配付を行ないます。（学生証をご持参願います。）

配付時期・場所は所属学部・研究科によって異なりますので、3月下旬頃の教育用計算機システムのホームページをご注意下さい。

<http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

※年度末をもって卒業・退職、または学外へ転出する方は、継続出来ません。

##### ○問い合わせ

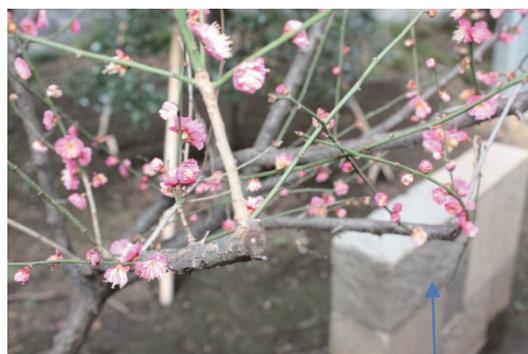
情報教育支援係

電話 03-5841-3004 内線 23004

情報リテラシー教育支援係

電話 03-5454-6140 内線 46140

[ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp)



梅健次郎先生の梅(と石碑)



## 訃報

### 伊藤漱平元教授

本学文学部元教授伊藤漱平先生は、2009年12月21日に仙逝されました。享年84歳でした。

伊藤漱平先生は、1925年愛知県のお生まれ。1949年3月に東京大学文学部中国哲学中国文学科を卒業、大学院に進まれましたが、同年8月退学して北海道大学助手に補せられました。その後、島根大学助教授、大阪市立大学助教授、北海道大学文学部教授などを経て、1977年4月東京大学文学部教授としてご着任、1986年3月に定年により退官されるまで、9年間にわたり本学での研究・教育に尽力されました。退官後は二松学舎大学教授となり、1989年より1993年に至るまで同大学学長をおつとめになりました。2002年春には、勳三等旭日中綬章を受章しておられます。

先生のご研究の中心は、中国近世小説、なかでも清代、曹雪芹の長編小説『紅樓夢』にあります。『紅



樓夢』の版本や作者をめぐる詳細で着実な論考を数多く発表されたほか、その味わい深い『紅樓夢』翻訳は、多くの読者に親しまれています。先生の膨大なご蔵書のうち、『紅樓夢』と明末清初の文人李漁に関する資料は、現在「両紅軒文庫」として本学東洋文化研究所に収蔵されています。なかには『紅樓夢』最初期の印刷本である「程甲本」、世界に一つしかない小説『嬌紅記』などの貴重な版本も含まれています。

先生は学会においても、日本中国学会理事長、東方学会常務理事・東京支部長などの要職を歴任され、これら学会の発展に寄与され、日中学術交流の発展にも力を尽くされました。

先生は、ご退休后、そのお力を『伊藤漱平著作集』（汲古書院刊）の編集に注いでおられました。全五巻のうち、第一巻から第三巻に至る「紅樓夢編」は完結しましたが、つづく第四巻の刊行を目前にしてのご逝去は、ご無念だったであらうでしょう。本年中には、第五巻も刊行の予定です。伊藤漱平先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(大学院人文社会系研究科・文学部)

	氏名	異動内容	旧（現）職等
（採用）			
22.2.1	白髭 克彦	分子細胞生物学研究所教授	東京工業大学大学院生命理工学研究科教授
（昇任）			
22.1.16	小竹 元基	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科講師
22.1.16	加藤 恒昭	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科准教授
22.1.16	齊藤 文子	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科准教授
22.1.16	藤垣 裕子	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科准教授
22.2.1	池上 恒雄	医科学研究所附属先端医療研究センター准教授	医学部附属病院助教

※ 退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。  
 東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

＝ 特集テーマ & 執筆部署募集告知＝ 特集の記事を執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集はとても効果的です。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

1. 制作方法

① テーマの選定

全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することになっています。  
 まずは、本部広報グループに気軽にご相談ください。特集に馴染まないテーマでない限り、対応します。  
 （締切日の1カ月前位までに一度ご相談ください）

② 内容・構成の決定

執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。  
 見開き2ページを1単位とし、内容が盛りだくさんの場合は4ページ、または6ページで構成することもあります。

③ 原稿の執筆

構成に合わせて原稿を書いていただきます。字数等は編集スタッフが提示します。原稿はwordでご執筆下さい。

④ ビジュアル要素の提供

特集に盛り込む写真・図・イラストをご提供していただきます。

⑤ デザイン

原稿、写真・図等を素材にして、執筆部署または編集スタッフがページデザインを作ります。

⑥ 校正

主に文字校正を行なっていただきます。

⑦ 完成

刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布します。

2. 締切日

こちらから期日を申しますので、ご協力をお願いします。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム TEL：03-3811-3393 内線22031 E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



# 「学内広報」ニュース・インフォメーション記事提出要領

## 作成例

本部広報グループ

「キャンパスツアー」スタート!

本学学生がツアーガイドとなって、赤門や大講堂(安田講堂)、三四郎池、総合図書館など、本郷キャンパス内の名所旧跡を案内する「キャンパスツアー」が今年も始まった。キャンパスツアーは昨年度から実施されており、「ジュニアTA制度」に基づき応募した学生が、東京大学の歴史や学生生活のエピソードを交えながら、約2時間にわたり案内する。

今年度のスタートとなった5月14日(土)には、午前、午後合わせて43人が参加し、ツアーガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。



広報センター前で説明するガイドとそれを聞く参加者

ツアーには、高校生以上であれば誰でも無料で参加することができる。今後のツアーは、五月祭期間や年末年始、入試期間を除く授業期間の土曜日と日曜日(10:00~12:00、14:00~16:00)に行われる予定である。



正門から大講堂に続く銀杏並木

記事の冒頭に**部局名**を記載

簡潔で分かりやすい**タイトル**を記載

- ・過去の報告記事(ニュース)では「**である調**」を用いる
- ・今後のお知らせ(インフォメーション)では「**ですます調**」を用いる

日付には括弧書きで**曜日**をつける

- ・写真を掲載する場合は、25文字以内で**キャプション**(写真の説明文)をつける。写真は3枚程度まで
- ・原稿とは別に、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを別途送付する(プリントの写真は学内便で送付)

句読点は「、」「。」を用いる

時間は**24時間表記**とする

- ・記事は一行25文字の書式で作成する。
- ・文字数は800字を目安とするが、内容によって増減は可とする。
- ・人物名は**フルネーム**で表記すること。

## 提出上の注意

### 1. 提出方法

記事は、各部局の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとして送付すること。  
(学内広報担当者の個人アドレスではなく、必ず下記のアドレスに送付してください。)

### 2. 締切日

HPで発行スケジュールを確認すること。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)  
トップページ> 広報・情報公開> 学内広報

### 問い合わせ先・提出先

本部広報グループ広報企画チーム  
TEL: 03-3811-3393(内線 22031)  
E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

※原稿を受け取った後、学内広報担当者から、必ず**受領メール**をお送りしています(概ね1週間以内)。返信メールが届かない場合は、何らかのトラブルで原稿を受け取れていない可能性がありますので、**その際はお問合せ願います**。

## シナリオ実現に準備着々!

学内意見募集が終了し、「行動シナリオ」の策定作業も大詰めを迎えています。今回は、すでにシナリオの実現に向けて動き出している事業の一つである「インターナショナル・ロジ 柏ロジ」についてご紹介します。

国際化対応の強化に向け、大学に海外から優れた研究者や留学生を多く招くためには、高度な教育研究機能を整えることに加え、海外からの研究者・留学生やその家族が快適な生活を送れる住環境を提供することも求められます。このため、各国立大学でも、法人化以降、良質な外国人宿泊施設を提供することで国際競争力のある教育研究環境をアピールする取り組みが徐々に進められてきています。



柏ロジの外観

このたび東京大学では、海外からの研究者・留学生に魅力ある住環境を提供する取り組みとして、柏Ⅱキャンパスに新たに「インターナショナル・ロジ 柏ロジ」を建設し、4月にオープンすることになりました。

新たなロジの規模は全143室。そのうち40室が外国人研究者用で、102室が留学生用となっています。部屋のタイプは、単身用のワンルームタイプと夫婦用のタイプ、さらに家族用のタイプがあります。また、居住者の交流のためにロジ内に共用の多目的スペースが設けられています。

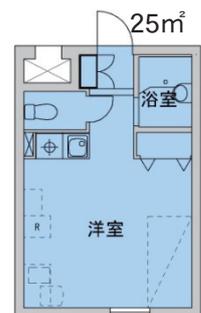
特に、海外から初めて日本に来た研究者・留学生が安心して円滑に生活をスタートできるように、各室には、基本的な家具や家電が備え付けられ、さらに、インター

ネット回線が完備されており、また、英語で対応できるスタッフが24時間配置されています。

新しいインターナショナル・ロジのオープンを契機として、海外からの研究者・留学生の受け入れが進み、更なる国際化の進展が期待されます。

留学生室

研究者室



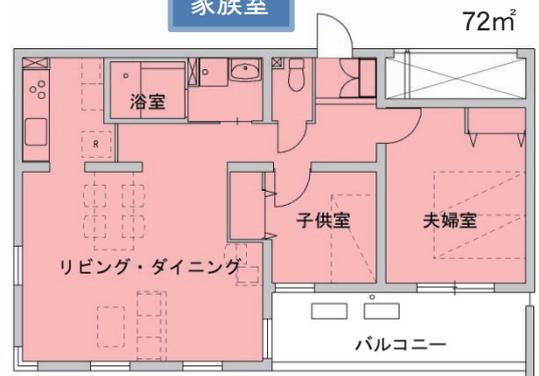
夫婦室

48m²



家族室

72m²



各タイプの居室レイアウト

## 「行動シナリオ」意見募集へのご協力、ありがとうございました。

1月19日から2月10日まで東大ポータル上で行っていた「行動シナリオ」の学内意見募集に関しては、学内各方面から多数のご意見をお寄せいただき、どうもありがとうございました。

お寄せいただいたご意見につきましては、「行動シナリオ」の内容への反映を検討するほか、シナリオを実現するために必要な様々な施策を行うにあたり、参考にしていきたいと思います。

寄せられたご意見の中には、自発的に集まった若手職員有志から「行動シナリオへの提言を考えているので、総長や理事にプレゼンテーションを行いたい」という要望もありました。この要望を受け、2月8日に佐藤慎一理事(副学長)が有志と面会しました。

「タフな東大生」「東大の財務と組織」「東大職員のあり方」「東大の情報化」「行動シナリオの見せ方」の5テーマについて、硬軟織り交ぜたプレゼンテーションと活発な議論が行われ、予定を大幅に越える2時間以上の会合となりました。



←公式キャラクターとしての提案があった「もりかも」

↓盛り上がりを見せた佐藤理事へのプレゼンテーション



# Contents

## 特集

- 02 東京大学の教育～「大学教育の達成度調査」からみえてくるもの

## NEWS

### 一般ニュース

- 14 本部人事給与グループ  
今年度の定年退職教員は67名

### 部局ニュース

- 15 大学院人文社会系研究科・文学部  
国際シンポジウムDIALOGUE ON DEATH AND LIFE: VIEWS FROM EGYPT (『死生をめぐる対話—エジプトからの眺望』)
- 16 大学院教育学研究科・教育学部  
福島教授の特別授業が教育学部附属中等教育学校で行われる
- 16 大学院総合文化研究科・教養学部  
三鷹国際学生宿舎で「三鷹市民と三鷹国際学生宿舎生との集い」開催される
- 17 大学院総合文化研究科・教養学部  
三鷹国際学生宿舎で「新年会」開催される
- 18 大学院医学系研究科・医学部  
UT-CBEL 第2回 堀場GABEX国際会議 大盛況で終了
- 19 大学院農学生命科学研究科・農学部  
自衛消防訓練を実施
- 20 附属図書館  
柏図書館で中学生の職場体験を受け入れ

## コラム

- 21 PCリユースのわ 第4回
- 21 インタープリターズ・バイブルvol.31
- 22 Policy + alt vol.06
- 23 Crossroad 産学連携本部だより vol.51
- 24 コミュニケーションセンターだより No.65
- 24 ケータイからみた東大～東大ナビ通信～
- 25 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第48回

## ◆ 表紙写真 ◆

懐徳館と梅

## INFORMATION

### シンポジウム・講演会

- 27 地震研究所  
東京大学シンポジウム「長周期地震動とその都市災害軽減」

### 募集

- 27 本部学生支援グループ  
東京大学学生支援事業・平成21年度学生企画コンテスト

### お知らせ

- 28 退職教員の最終講義
- 31 大学院人文社会系研究科・文学部  
「三友館」の開設について
- 31 大学院総合文化研究科・教養学部  
「教養学部報」第527(2月3日)号の発行  
——教員による、学生のための学内新聞——
- 32 本部広報グループ  
広報センターの臨時休館のお知らせ
- 32 分子細胞生物学研究所  
第3回技術発表会開催のお知らせ
- 32 情報基盤センター  
新学期に向けて“情報探索ガイダンス”のご案内
- 33 本部学生支援グループ  
第56回東京地区国立大学連合文化会美術展(国公立展)のご案内
- 34 情報基盤センター  
教育用計算機システムの継続利用手続きについて

## 訃報

- 35 伊藤漱平元教授

## 事務連絡

- 36 人事異動(教員)

## 巻末特別記事

- 38 What's going on? 「行動シナリオ」 Vol.7

## 淡青評論

- 40 そもそも・・・

## 編集後記

このたび学内広報を担当することになりました。学内広報は40年以上続く「古い」広報誌ですが、毎月学内の「最新の」情報を掲載しています。伝統を尊重しつつも新しいことにチャレンジする、東大らしい広報誌ですね。私は広報に配属されてからもう2年経過しますが、これまでの経験を生かしつつも、新鮮な気持ちで仕事に臨みたいと思います。よろしくお願いします。(と)



七徳堂鬼瓦

## そもそも・・・

国立大学法人への移行に伴い、大学職員の意識も労働・安全への配慮やコンプライアンスの徹底など以前とはずいぶん変わってきたと感じる。学生さんを預かる教員として、学生さんにもしものことがおきてしまったら親御さんに顔向けできないと思っていたので、安全に関する意識の向上および制度導入は良いことである。しかし、労働安全衛生法に基づく薬品管理

のためのラベル化など、どうも大学の実態にそぐわない規則が多いとも思う。そもそもこの法律は大量生産を行う工場の安全を担保するために定められたものであり、これを少量多品種を扱う大学に適応したことによる不具合である。また、コンプライアンスの徹底に筆者は反対するものではないが、これもいろいろと不具合があると思う。そもそも税金の無駄をなくすためにいろいろな制度を導入するわけであるが、コンプライアンスにはコストがかかる。企業においてはコンプライアンスの徹底と利潤をあげることとのバランスがいずれ取れるはずであるが、大学においてはコンプライアンスの徹底に伴う負の面（研究生産性の低下など）が見えにくいこともあり、歯止めがかからなくなる恐れがある。もとをただせば、コンプライアンスの概念は、エンロンの破たん起因して株主保護のため成立した米国 SOX 法で広まったと考えることができるので、本来の趣旨と異なるところで広く規制が行われていることとなる。

昨年一世を風靡した「事業仕分け」に関しても、科学技術の成果を国民に正しく伝える重要性が認識された点は良い面であるが、そもそも「事業」とはリターンを要求される経済活動と定義されるものであるので、研究を「事業仕分け」することは無理がある。したがって、研究に関しては「研究仕分け」を行うべきであり、現在ならばこの作業は「仕分け人」ではなく総合科学技術会議でおこなわれることが適切である。

我々の周りには様々な制度があるが、大学の本質を考えた制度設計を行うことが重要と考える。

嶋田一夫（大学院薬学系研究科・薬学部）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。

No. 1396 2010年2月19日  
東京大学広報委員会

〒113-8654  
東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学本部広報グループ  
TEL：03-3811-3393  
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
<http://www.u-tokyo.ac.jp>